

令和7年度 事業報告

令和7年度の国会事業は、「2025年のその先へ～すべてのライフステージで必要とされる薬剤師を目指して～」を活動テーマとして掲げ、薬剤師の資質向上、薬局機能の充実、ならびに地域医療への貢献に資する各種施策を実施した。

薬剤師の資質向上対策においては、「患者のための薬局ビジョン」を踏まえ、都薬生涯研修認定制度および生涯学修プログラムの充実を図った。具体的には、とやくプラットフォームの公開およびt-MYLSを充実させるとともに、各種講習会の開催、次世代薬剤師育成事業、女性の健康支援、緊急避妊薬の販売に向けた情報提供等に取り組んだ。

薬局機能の充実対策では、地域医薬品提供体制構築推進事業として、アクションリスト実行に向けた地区薬剤師会担当国会議やブロック国会議等を通じて情報提供を行った。また、セルフメディケーションの推進、休日・夜間および在宅医療における医薬品提供体制の整備・拡充に努めた。さらに、薬局のあり方や業務の可能性について自由に議論する場として「ふらっとサークル」を立ち上げた。

医療保険対策では、令和8年度診療報酬・調剤報酬改定に対応するため、医療保険関連情報の収集および地区指導者研修会を実施した。

薬事衛生・公衆衛生事業においては、若年者による一般用医薬品等のオーバードーズ問題に対応するため、東京都との連携に加え、日本薬剤師会、警視庁、くすりの適正使用協議会との覚書に基づき、啓発資料の作成や各地域での講演等を通じて、薬物乱用防止活動を推進した。

組織強化対策では、会員増加に向けた施策として、地区薬剤師会の正会員が所属する薬局の20代の勤務薬剤師（非会員）を対象とした都薬会費（最大2年間）免除制度を導入した。また、薬学生の就職支援および薬剤師職能の理解促進を目的に、関係団体および行政機関と連携し、「薬剤師のリアルを聴いてみよう！」を実施した。

災害対策においては、災害時医療支援体制への協力、災害薬事コーディネーターの養成、関係機関との連携体制の整備、防災訓練への参加、薬局BCPの策定支援等を通じ、非常時における医薬品供給体制の確保に努めた。令和8年3月には、東京都が導入した災害対策医薬品供給車両（モバイルファーマシー）の運用管理に関する協定を締結し、研修および訓練を開始した。

【活動テーマ】

「2025年のその先へ～すべてのライフステージで必要とされる薬剤師を目指して～」

【重点項目】

- 都薬生涯研修認定制度の利用促進と都薬生涯学修プログラムの拡充
- 災害時医療救護に係る「災害薬事コーディネーター」等の養成と連絡体制の整備
- 都民に対する一般用医薬品の適正使用の啓発
- セルフケア・セルフメディケーション推進による適切な医薬品提供体制の構築
- 切れ目のない薬物療法の提供に向けた薬・薬連携の推進
- 次世代薬剤師育成事業の実施
- 対人業務の充実に向けた医療DX化への対応

東京都薬剤師会 令和7年度事業報告

第1 一般会務報告

1. 会員数 6,526名(令和8年3月31日現在)

【資料1】

2. 会議等開催状況

(1) 総会(第107回通常総会、第108回臨時総会、第109回臨時総会)	3回
(2) 総会議事運営委員会	4回
(3) 役員選挙管理委員会	1回
(4) 代議員選挙管理委員会	2回
(5) 日本薬剤師会東京ブロック代議員打合せ会	2回
(6) 「都薬功労賞」授賞者選考委員会	1回
(7) 令和7年度「都薬功労賞」授賞式	1回
(8) 賀詞交歓会(令和7年度各賞受賞者祝賀会)	1回
(9) 地区及び職域薬剤師会会長会	11回
(10) 業界紙(誌)共同取材・定例記者会見	11回
(11) 理事会	26回
(12) 会長・業務執行理事打合せ	24回
(13) 正副会長打合せ会	7回
(14) 担当役員会	20回
(15) 常置委員会(小委員会を含む)	92回
(16) 特別委員会	4回
(17) ワーキンググループ	8回
(18) 監事監査会	4回
(19) 顧問・相談役会	2回
(20) 東京都三師会	1回
(21) 東京都病院薬剤師会との役員懇談会	1回
(22) 臺北市薬師公會・技術交流会	1回
(23) ソウル市薬剤師会表敬訪問	1回
(24) 地区及び職域薬剤師会会長情報交換会	1回
(25) お試し入会キャンペーン交流会	1回
(26) 薬剤師のリアルを聴いてみよう	1回
(27) かかりつけ薬剤師研修会	1回
(28) 禁煙支援薬剤師認定審査会	2回
(29) 認知症サポート薬剤師 面接授業(e-ラーニング講座スクーリング)	1回

(30) 臨床薬学講座	1 回
(31) 薬学講習会	1 回
(32) 基準薬局中央研修会	1 回
(33) 東京都薬剤師認知症対応力向上研修	2 回
(34) 実務実習受入伝達講習会	1 回
(35) 薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議	1 回
(36) 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	2 回
(37) 認定実務実習指導薬剤師 養成講習会	2 回
(38) 認定実務実習指導薬剤師 更新講習会	2 回
(39) より質の高い実務実習を目指すためのアドバンストワークショップ	2 回
(40) 関東地区調整機構との実務実習に関する意見交換会	1 回
(41) 地区薬剤師研修会「都薬アワー」	1 回
(42) 直扱会員を対象とした「都薬アワー」	1 回
(43) 薬局業務研修会	1 回
(44) 健康サポート薬局に係る技能習得型研修《研修会 A》	1 回
(45) 健康サポート薬局に係る技能習得型研修《研修会 B》	1 回
(46) 高度管理医療機器等営業所管理者等継続研修会	1 回
(47) セルフケア・セルフメディケーション研修会	1 回
(48) 薬薬連携を推進するための研修会	1 回
(49) 在宅地区担当者会議	1 回
(50) 多職種関係者連絡会	1 回
(51) 東京都薬薬連携実践推進担当者研修会議	1 回
(52) 東京都薬薬連携実践推進研修会	1 回
(53) 薬薬連携推進関係者連絡会	1 回
(54) 在宅訪問ステップアップ研修会	3 回
(55) 無菌調製技能習得研修会「ステップアップ研修」	1 回
(56) 無菌調製技能習得研修会(講義・実習)	3 回
(57) 東京都がん薬物療法協議会(三団体合同薬薬連携推進研修会)	1 回
(58) 薬局薬剤師のためのコンプライアンス研修会	1 回
(59) 令和 8 年度調剤報酬改定に関する医療保険地区指導者研修会	1 回
(60) 医療保険指導者養成講座	1 回
(61) 在宅療養多職種連携研修会	1 回
(62) 重複・多剤服薬者対策に向けた連携構築支援事業に係わる説明会	1 回
(63) 健康食品による健康被害に関する研修会	1 回
(64) 「かかりつけ薬局育成事業」編集会議	4 回
(65) 薬事衛生自治指導員全体講習会	1 回

(66) アンチ・ドーピング活動地区指導者講習会	1 回
(67) 公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会	1 回
(68) 学校薬剤師担当者連絡会議	1 回
(69) 「児童・生徒の薬物乱用防止に関する覚書」に基づく 来年度に向けた会議	1 回
(70) ふらっとサークル	4 回
(71) 災害時薬事活動リーダー研修	2 回
(72) 関東・東京エリア災害対策連絡会	1 回
(73) 東京薬科大学所有モバイルファーマシーを使用した展開・運転訓練	1 回
(74) 災害対策医薬品供給車両(モバイルファーマシー)運転・設営訓練	1 回
(75) 「地域医薬品提供体制強化のためのアクションリスト」対応に向けた 地区担当国会議	1 回
(76) 地域医薬品提供体制強化に向けたブロック会議	3 6 回
(77) 「地域医薬品提供体制強化」対応に向けた都薬役員担当国会議	3 回
(78) 「とやくプラットフォーム」地区(市)薬剤師会向け担当者説明会	1 回
(79) 「とやくプラットフォーム」地区薬剤師会向け個別説明会	2 回
(80) 生涯学修関連会議	2 4 回

3. 役員の公的機関等への参画

【東京都 関連】

東京都医療審議会 : 高橋会長
 東京都薬事審議会 : 高橋会長
 東京都国民健康保険運営協議会 : 高橋会長
 東京都医療費適正化計画検討委員会 : 高橋会長
 東京都子供応援協議会委員 : 高橋会長
 東京都エイズ専門家会議 : 高松副会長
 東京都在宅療養推進会議 : 高松副会長
 東京都特殊疾病対策協議会 在宅療養・医療連携支援対策部会 : 高松副会長
 東京都後発医薬品安心使用促進協議会 : 根本副会長
 東京都大気汚染医療費助成検討委員会 : 根本副会長
 東京都難病対策地域協議会 : 根本副会長
 救急医療対策協議会 : 根本副会長
 外国人患者への医療等に関する協議会 : 根本副会長
 東京都介護保険審査会 : 根本副会長
 東京都立東大和療育センター運営協議会 : 根本副会長
 東京都後発医薬品安心使用促進協議会 : 宮川副会長

東京都保健医療計画推進協議会 : 宮川副会長
 東京都地域医療構想調整部会 : 宮川副会長
 東京都災害医療協議会 : 宮川副会長
 災害時要配慮者医療提供部会委員 : 宮川副会長
 東京都感染症医療体制協議会 : 宮川副会長
 東京都感染症対策連携協議会 : 宮川副会長
 東京都感染症対策連携協議会 医療体制協議部会 : 宮川副会長
 東京都新型インフルエンザ等対策有識者会議 : 宮川副会長
 東京都新型インフルエンザ等対策有識者会議 医療・公衆衛生部会 : 宮川副会長
 東京都子供応援協議会幹事 : 宮川副会長
 東京都大気汚染医療費助成検討委員会手引等検討部会 : 會田常務理事
 自殺総合対策東京会議 : 犬伏常務理事
 東京都糖尿病医療連携協議会 : 犬伏常務理事
 東京都高齢者保健福祉施策推進委員会 : 犬伏常務理事
 東京都社会福祉審議会臨時委員(身体障害者福祉分科会) : 小林常務理事
 東京都要保護児童対策地域協議会代表者会議 : 田極常務理事
 救急医療対策協議会 : 田中常務理事
 東京都災害時こころのケア体制連絡調整会議 : 田中常務理事
 東京都感染症対策連携協議会 予防計画協議部会 : 田中常務理事
 東京都花粉症対策検討委員会 : 藤尾常務理事
 東京都がん対策推進協議会 : 松本常務理事
 東京都がん対策推進協議会「がん計画推進部会」及び「緩和ケアワーキンググループ」
 : 松本常務理事
 東京都医療安全推進協議会 : 松本常務理事
 東京都障害者差別解消支援地域協議会 : 和田常務理事
 東京都健康推進プラン 21 推進会議 : 和田常務理事
 東京都結核対策技術委員会 : 和田常務理事
 東部地域病院運営協議会 : 和田常務理事
 外国人患者への医療等に関する協議会 : 川田理事
 精神疾患地域医療連携協議会 : 篠原理事
 医療情報に関する理解促進委員会 : 篠原理事
 東京都立東部療育センター運営協議会 : 濱野理事
 東京都立墨東病院運営協議会 : 濱野理事
 東京都アレルギー疾患対策検討委員会 : 町田理事
 東京都立東部療育センター運営協議会 : 町田理事

東京都食品安全情報評価委員会「健康食品」による健康被害事例専門委員会
：町田理事

【関連団体】

関東信越地方社会保険医療協議会臨時委員　：高橋会長
社会保険診療報酬支払基金 東京審査委員会事務局審査運営協議会参与　：高橋会長
健康企業宣言東京推進協議会　：高橋会長
第 28 回日本医薬品情報学会総会・学術大会組織委員　：高橋会長
東京都区西部緩和ケア連携推進事業運営会議　：高松副会長
日本薬学会関東支部市民講座企画委員　：高松副会長
第 18 回日本在宅薬学会学術大会組織運営委員会　：高松副会長
東京都医師会 タバコ対策委員会　：高松副会長
東京都国民健康保険団体連合会 介護給付費等審査委員会　：根本副会長
東京都保険者協議会　：根本副会長
東京都後期高齢者医療広域連合運営会議　：根本副会長
東京都医師会 東京都多職種連携連絡会　：會田常務理事
東京都医師会 東京都糖尿病対策推進会議　：犬伏常務理事
OTC 医薬品普及啓発イベント
「よく知って正しく使おう OTC 医薬品」実行委員会　：犬伏常務理事
東京都西南部 10 区依存症関連機関連携会議　：小林常務理事
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構委員　：田極常務理事
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構
認定実務実習指導薬剤師小委員会　：田極常務理事
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構
実務実習向上小委員会　：田極常務理事
厚生科学審議会結核部会臨時委員　：和田常務理事
東京都医師会 地域包括ケア委員会　：永井理事
東京都立病院機構有識者会議　：濱野理事

第2 事業活動の概要

1. 薬剤師行動規範並びに薬事・医療関連法規の趣旨の周知と遵守の徹底

一般用医薬品等の適正使用の推進及び供給体制整備の周知・徹底を図るため、薬機法改正の動向に対応した資料を作成し配布すると共に各種講習会(薬事衛生自治指導員全体講習会、基準薬局中央研修会、地区薬剤師研修会、薬局薬剤師のためのコンプライアンス研修会)など、機会を捉え情報発信に努めた。また同様に薬剤師としての倫理及び薬事・医療関連法規の趣旨の周知を図った。

2. 薬剤師職能及び薬局機能対策

2-1 薬剤師資質向上対策(薬学振興対策)

(1)「患者のための薬局ビジョン」を踏まえた、かかりつけ薬剤師育成事業の実施

患者や地域住民の医薬品の適正使用のみならず、公衆衛生の向上及び健康な生活の確保のための情報提供や相談窓口となるなど「かかりつけ薬局」及び「かかりつけ薬剤師」の定着を図ることを目的に、「かかりつけ薬剤師研修会」を開催している。

【かかりつけ薬剤師研修会】(旧 かかりつけ薬局研修会)

令和7年度当会の各種研修会は、「2025年のその先へ～すべてのライフステージで必要とされる薬剤師を目指して～」を活動テーマとし、かかりつけ薬剤師研修会を下記のとおり開催した。

開催日時：令和7年11月16日(日)12:30～16:00

開催方法：集合・配信併用開催(会場：エッサム神田ホール2号館 4階大会議室)

受講者：会場92名(内、会員81名)

配信715名(内、会員598名)

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 「薬局OTC対応のポイント～胃腸薬編～」
株式会社メディカルガーデン(ガーデン薬局)
OTCセルフメディケーション推進室 室長 鈴木 伸悟
3. 「「胃が痛い」と訴えている患者への薬剤師としてのアプローチ」
東京医科大学病院薬剤部 主査 添田 博
4. パネルディスカッション
進行：東京都薬剤師会 常務理事 藤尾 絵美
生涯学習委員会 副委員長 高畠 啓輔
5. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登

(2) 禁煙支援薬剤師認定制度の推進

平成23年10月より、eラーニングを活用した都薬独自の禁煙支援薬剤師認定制度の運用を開始し、令和8年3月末時点で593名の受講申込があった。また、令和7年8月に第26回、令和8年2月に第27回認定審査会を開催した。これまでに禁煙支援薬剤師として計219名を認定した。

（３）都薬生涯研修認定制度の利用推進と都薬生涯学習プログラムの拡充

令和４年２月１８日に、薬剤師認定制度認証機構の認証を取得した、本会生涯研修認定制度の利用促進に向けては、本会が発行する都薬雑誌において、引き続き本会の生涯学習プログラムの概要を含め、同制度を活用することのメリット等について広く周知を行った。

また、これまで生涯研修制度の利便性向上に向け同制度の全面的な電子化について検討を重ねた結果、株式会社医療教育ラボ社が開発した、生涯学習マネジメントシステム「Leanect（ラネクト）」を基盤とした「とやくプラットフォーム（以下、とーぷら）」を導入することとし、令和７年１０月には、eラーニングシステム「t-MYLS」を「とーぷら」に先行して移管し、運用を開始した。また、令和８年２月より「とーぷら」の研修機能を公開し、受講者に「とーぷら」上で電子単位を発行する運用も開始した。なお、「とーぷら」の運用開始に際しては、年２回開催する地区薬剤師会研修会の都薬アワーにおいて、周知を行い当該システムの活用を促した。

令和７年度は、本会が開催する主要な研修会等において、すべてのライフステージで必要とされる薬剤師を目指し、幅広い分野にわたる研修会を実施した。令和７年７月１３日に開催した基準薬局中央研修会では「薬局DX」をテーマに掲げ、薬局業務の効率化にとどまらず、多様な情報をどのように活用し、患者・都民へ安心安全な医療を提供するかという視点から講演を行い、その後パネルディスカッションを実施した。令和７年８月３１日の薬学講習会では、近年さらなる推進が求められている多職種連携を踏まえ、大腸がんにおける薬薬連携をテーマに、病態・治療から実際の連携事例までを解説した。また、医療安全に関する講演も行い、薬剤師として求められる医療安全の視点の共有を図った。令和７年１１月１６日に開催した、かかりつけ薬剤師研修会では、かかりつけ薬剤師に必要な薬学的知識と行動を軸に、薬局店頭で求められるOTC医薬品販売のポイントについて講演した。続いて、患者・来局者からの相談に適切に対応できるよう、臨床推論に関する講演を行い、その後のパネルディスカッションではオンラインフォームを活用し、テキストマイニングを取り入れた双方向性のある議論ができるよう工夫した形式で実施した。令和８年１月２５日の薬局業務研修会では、薬局業務の将来を見据え、地域で活躍する薬剤師や行政の立場から講演を行った。現在求められている薬局業務を再確認するとともに、今後薬剤師業務をどのように広げていくかについてパネルディスカッションを行った。

また、令和６年度の薬剤師認定制度認証機構のプロバイダー認定更新において、施設調剤や高齢化の進展、認知症療法の強化、ポリファーマシー対策、緩和医療などをテーマとした研修会の開催が求められたことを受け、今年度は在宅訪問ステップアップ研修会において施設在宅に関する研修や、精神科診療に伴う在宅医療に関する研修会を開催した。

eラーニングシステム「t-MYLS」のコンテンツについては、次年度の１０単位コースの新設に向け５疾病を中心に更なる作成・拡充を進めた。特にがん領域に注力し、既存の大腸がん講座に加え、乳がん、前立腺がん、胃がんなど、薬局薬剤師が日常業務で頻繁に対応するがん種の講座を充実させた。その他、漢方療法、在宅医療、災害・感染症における薬局薬剤師の対応を学ぶ研修コンテンツに加え、教育分野における後進育成の観点からの講座も公開し、疾患・治療にとどまらず幅広い領域で生涯研鑽に取り組めるよう整備した。

その結果、令和７年度に本会が発給した認定単位は下表のとおりである。

【認定単位シール発給研修会】

	1 単位	2 単位	3 単位	4 単位
研修開催数	317	58	6	5
単位発給数	9,413	5,573	292	102

【とやくプラットフォーム電子単位発給研修会】

	1 単位	2 単位	3 単位	4 単位
研修開催数	4	8	3	0
単位発給数	285	675	176	0

また、令和 7 年度に本会が認定した認定薬剤師は延べ 837 名（内訳 新規：100 名、更新：737 名）であった。

なお、都薬ホームページでは、禁煙支援薬剤師認定制度（2－1（2）「禁煙支援薬剤師認定制度」の項を参照）に続く生涯学習プログラムとして、平成 27 年から「認知症サポート薬剤師 e－ラーニング講座」を公開している。また、e－ラーニング講座を受講した方を対象として、さらに学びを深め、認知症サポーターとしての知識を習得することを目標としたスクーリングをこれまでに 7 回実施している。

令和 7 年度も下記のとおりスクーリングを開催し、一般・会員合わせ 27 名に修了証を発行した。

【令和 7 年度 認知症サポート薬剤師 面接授業（e－ラーニング講座スクーリング）】

開催日時：令和 8 年 3 月 8 日（日）12:30～16:30

開催場所：慶應義塾大学薬学部芝共立キャンパス 2 号館 4 階 460 大講堂

受講者：27 名（会員 19 名、会員外 8 名）

内 容：

総合司会/東京都薬剤師会 常務理事 藤尾 絵美
東京都薬剤師会 常務理事 小林 百代

1. 開会挨拶

2. 第 1 部：講義・グループ討議Ⅰ・全体発表

「認知症サポート薬剤師とは」

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員 中島 謙司マクミリアン

3. 第 2 部：グループ討議Ⅰ・全体発表

【テーマ】「認知症（疑いのある）ご本人や家族、他職種と対応する上で印象に残っていること」

進行：生涯学習委員会 副委員長 高島 啓輔／まとめ：理事 浅井 和範

4. 第 3 部：講演

「認知症でも私らしく」＝布川佐登美型認知症＝

NPO 法人ケアラーネットみちくさ／ちばオレンジ大使 布川 佐登美

「認知症は予防できる？」

NPO 法人 Alz 柏わの会 理事長 柏木 とき江

5. 第 4 部：グループ討議Ⅱ・全体発表

【テーマ】「認知症（疑いのある）ご本人や家族、他職種に対して、薬剤師として、もってできること。してみたいこと。」

6. 第 5 部：質疑応答

進行：生涯学習委員会 副委員長 高島 啓輔

7. 第 6 部：決意表明

「明日から取り組むこと」(グループ内発表)

8. 修了証授与(修了証授与人数:27名)・閉会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

(4) 日本薬剤師会生涯学習支援システム(JPALS)の利用推進

平成24年4月より、日本薬剤師会生涯学習支援システム(JPALS)がスタートした。平成26年5月には、JPALSのポートフォリオ(実践記録)の記載をより容易とするために「実践記録シート」を作成して都薬ホームページ上に掲載し、地区薬剤師会にもその活用を促している。本会で開催する主な講習会においては、プログラム等にJPALSコードを記載し、また、「実践記録シート」を配布するなど、JPALS利用者の利便を図るよう努めた。

(5) 薬学講習会等各種講習会の開催

① 臨床薬学講座の開催

令和7年度の臨床薬学講座は、PEG・PTEG造設手技への理解と簡易懸濁法をテーマに実践的な実習の研修会を開催した。

【臨床薬学講座】

開催日時：令和7年11月9日(日)13:00～17:20

開催場所：星薬科大学 第二新館2F 第2実習室

受講者：30名(会員26名)

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登
2. <講 義>
 - 1) PEGやPTEGなどの経管経腸栄養法の適応と造設法および管理の実際
独立行政法人 国立病院機構 村山医療センター
外科 統括診療部長 大石 英人
 - 2) 摂食嚥下障害について
東京都薬剤師会 学術委員会 委員長 近藤 幸男
3. <実 習>
 - 1) PEGやPTEGなどの経管経腸栄養法の造設法についての実習
独立行政法人 国立病院機構 村山医療センター
外科 統括診療部長 大石 英人
 - 2) 簡易懸濁法についての実習
東京都薬剤師会 学術委員会 委員長 近藤 幸男
4. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 理事 浅井 和範

② 薬学講習会の開催

令和7年度は、「がん薬物療法とがん治療における薬局薬剤師との連携」をテーマに薬学講習会を開催した。また、薬局における医療安全管理研修では、薬剤師が取り組む医療安全について業務におけるヒヤリハット事例を参照し、薬剤師の安全対策意識および実務対応力の向上を図った。本年は東京国際フォーラムで開催した。

【薬学講習会】

開催日時：令和7年8月31日（日）13：00～16：25

開催場所：東京国際フォーラム ホールA

受講者：946名

内容：

1. 挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登
2. 最近の薬務行政について 東京都保健医療局健康安全部 薬事監視担当課長 渡辺 大介
3. がん薬物療法の総論・大腸がん治療における薬局薬剤師との連携 昭和医科大学江東豊洲病院 副院長 腫瘍内科 教授 嶋田 顕
4. 【医療安全管理講座】 薬剤師が取り組む医療安全 公益財団法人日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部 大野 郁子

③ 令和7年度 基準薬局中央研修会の開催

今年度も、集合研修およびオンライン研修により、「薬局 DX」をテーマに基準薬局中央研修会を下記のとおり開催した。

【令和7年度 基準薬局中央研修会】

開催日時：令和7年7月13日（日）10:00～12:30

開催場所：帝京平成大学 中野キャンパス 203 教室

開催方法：集合研修及びオンライン研修

受講者：836名

- ・集合研修 129名（内、会員外4名）
- ・オンライン研修 707名（内、会員外19名）

内容：

1. 挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 行政の立場から考える薬局 DX のあり方 厚生労働省医薬局 医薬品審査管理課 課長補佐 小川 雄大
3. 情報共有ツールの活用による業務効率化 ～在宅薬局における asana 導入の実際とその効果～ 竹の葉薬局三鷹新川店 坪田 留央依
4. 生成 AI の本質理解と業務効率化への応用（オンライン講演） 株式会社サンコーファーマシー 福井 俊之
5. DX で近づく理想の薬局業務 なごみ薬局 渡邊 輝
6. パネルディスカッション
～薬局 DX の目的は何か？ 明日から踏み出す第一歩～
座長：東京都薬剤師会 薬局業務委員会 委員 竹中 孝行
パネリスト：厚生労働省 医薬局 医薬品審査管理課 課長補佐 小川 雄大
竹の葉薬局三鷹新川店 坪田 留央依
株式会社サンコーファーマシー 福井 俊之
なごみ薬局 渡邊 輝

④ 東京都薬剤師認知症対応力向上研修の開催

認知症の早期発見や医療における認知症への対応力を高め、地域において薬局・薬剤師が認知症の人への支援体制構築の担い手となることを目的として、東京都の委託により開催している。今年度も昨年度に引き続きオンライン開催とし、下記のとおり配信受講形式の研修会を2回実施した。

【令和7年度 東京都薬剤師認知症対応力向上研修 第1回】

開催日時：令和7年11月29日（土）15:00～18:40

開催方法：録画配信（Zoom ウェビナー）

受講者：243名

内容：

1. 開会・主催者挨拶

東京都福祉局高齢者施策推進部 認知症施策推進担当課長 並木 敬之
東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. 認知症への基本的な理解

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員 中島 謙司マクシミリアン

3. 薬局・薬剤師と地域包括支援センターの連携について

社会福祉法人三鷹市社会福祉事業団 三鷹市大沢地域包括支援センター
センター長 香川 卓見

4. 認知症のかたに対して薬剤師に求められること～薬学的管理と関係機関との連携～

東京都健康長寿医療センター 薬剤科係長 谷古宇 美佳

5. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

6. 事務連絡

東京都薬剤師会 理事 浅井 和範

【令和7年度 東京都薬剤師認知症対応力向上研修 第2回】

開催日時：令和7年12月7日（日）9:00～12:40

開催方法：録画配信（Zoom ウェビナー）

受講者：296名

内容：

1. 開会・主催者挨拶

東京都福祉局高齢者施策推進部 認知症施策推進担当課長 並木 敬之
東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. 認知症への基本的な理解

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員 中島 謙司マクシミリアン

3. 薬局・薬剤師と地域包括支援センターの連携について

社会福祉法人三鷹市社会福祉事業団 三鷹市大沢地域包括支援センター
センター長 香川 卓見

4. 認知症のかたに対して薬剤師に求められること～薬学的管理と関係機関との連携～

東京都健康長寿医療センター 薬剤科係長 谷古宇 美佳

5. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

6. 事務連絡

東京都薬剤師会 理事 浅井 和範

（6）認定実務実習指導薬剤師の養成・更新及び次期改訂内容を踏まえた薬学教育カリキュラムに基づいた実務実習の充実

薬学教育6年制課程における長期実務実習を適切に実施するため、受入施設の確保および学生を指導する指導者の資質向上が重要であるとの認識のもと、安定した受入れ態勢の維持と質の高い実務実習の充実を図ることを目的に、今年度も本会では、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構（以下、関東地区調整機構）をはじめとする種々の教育関連機関と連携して各種事業を遂行した。

現行の薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた実務実習の充実した実施に向けて、学習成果基盤型教育（Outcome-Based Education、以下「OBE」）に基づく認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）を今年度も引き続き実施する旨等に関する薬学教育協議会からの協力依頼を受け、本会では、安定した実務実習受入れ態勢の維持を図るために、関東地区調整機構の認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ開催計画に則り、下記のとおり「関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」を2回共催した。今年度も本会が事務局を担当したワークショップにおいては、実習時のトラブルを事前に回避することを目的に本会が作成したリーフレット「ハラスメントのない実務実習（2021年度改訂）」を配付した。

また、関東地区（調整機構単位）各県薬剤師会が事務局を担当した「関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」（全4回）に、本会会員薬局から受講者12名（第1回2名、第2回4名、第11回3名、第15回3名）が参加した。これにより平成17年度（2005年度）より実施された認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）への本会会員薬局からの総受講者数は今年度までに2,508名となった。

薬学教育協議会認定実務実習指導薬剤師認定制度実施要領に基づく、「認定実務実習指導薬剤師」の認定要件となる「認定実務実習指導薬剤師 養成講習会（講習会形式の研修講座①②③）」を下記のとおり2回実施した。また、更新を迎える認定実務実習指導薬剤師を対象とした「認定実務実習指導薬剤師 更新講習会（講習会形式の研修講座④）」を養成講習会と同日開催で下記のとおり2回実施した。昨年度より引き続き実務実習におけるハラスメントを無くするため「学生が安心して成長できるハラスメントのない実務実習を目指して」の講演を実施した。10月より、講座④の講演DVDが一新され、改訂された更新講習会を実施した。

本会では、より質の高い実務実習の実施に向け、指導に係る薬剤師全体のレベルアップを図るとともに地区の指導者を養成することを目的に、都内受入れ施設の認定実務実習指導薬剤師を対象とした「より質の高い実務実習を目指すためのアドバンストワークショップ（以下、「より質の高い実務実習を目指すためのADWS」と称す）を今年度は、全2回の開催を企画した。第1回は今後のADWSをより充実したものとするため、エリア内の実務実習において具体的な対応策に取り組んでいただけるよう、地区の認定実務実習指導薬剤師の有資格者である理事者並びにエリア責任者・担当者、実務実習関連の委員長・副委員長を対象に、第2回は東京都内の認定実務実習指導薬剤師を対象に下記のとおり開催した。

【第5回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ】

開催日時：令和7年7月20日（日）8：50～19：00

令和7年7月21日（月・祝）8：50～18：00

開催場所：帝京大学 板橋キャンパス 4階講義室

共 催：（公社）東京都薬剤師会・（一社）薬学教育協議会・

（一社）薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター：東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

帝京大学 薬学部 教授 柏倉 康治

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

タスクフォース：東京都薬剤師会 役員 4 名、実務実習委員会委員 10 名、
東京都病院薬剤師会 2 名、帝京大学 薬学部 1 名
関東地区調整機構 2 名

参 加 者：53 名 (2P6S)

参加者内訳：各地区薬剤師会 24 名、東京都病院薬剤師会 11 名、関東地区調整機構 12 名
(各県・病院薬剤師会 埼玉 7 名、新潟 3 名、山梨 2 名)、大学 6 名

【第 13 回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ】

開催日時：令和 8 年 1 月 11 日 (日) 9:00～19:00

令和 8 年 1 月 12 日 (月・祝) 9:00～18:00

開催場所：星薬科大学 新星館 1 階・2 階講義室

共 催：(公社) 東京都薬剤師会・(一社) 薬学教育協議会・

(一社) 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

コンサルタント：昭和医科大学 客員教授 中島 宏昭

ディレクター：東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

関東地区調整機構 事務局長 伊東 明彦

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

タスクフォース：東京都薬剤師会 役員 5 名、実務実習委員会委員 12 名、
東京都病院薬剤師会 9 名、埼玉県薬剤師会 1 名

参 加 者：81 名 (3P9S)

参加者内訳：各地区薬剤師会 30 名、東京都病院薬剤師会 24 名、関東地区調整機構 18 名
(各県・病院薬剤師会 茨城 3 名、千葉 11 名、神奈川 4 名)、大学 9 名

【関東地区調整機構主催 第 5 回 認定実務実習指導薬剤師 養成講習会】

開催日時：令和 7 年 6 月 15 日 (日) 13:00～18:00

開催場所：帝京大学 板橋キャンパス 4 階講義室

受 講 者：68 名

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登

2. 「学生が安心して成長できるハラスメントのない実務実習を目指して」(講演)
東京都薬剤師会 副会長 高松 登

3. 関東地区調整機構委員長 挨拶 (ビデオ)
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 委員長 中村 智徳

4. 講座①「薬剤師の理念」(ビデオ) 日本薬剤師会 会長 山本 信夫

5. 講座②-1「平成 25 年度 改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」(講演)

講座②-2「薬学実務実習に関するガイドライン」(講演)

薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 浅井 和範

6. 講座③-1「学生の指導 (法的問題)」(ビデオ) 弁護士・薬剤師 赤羽根 秀宜

7. 講座③-3「学生の指導 (改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した
病院実務実習)」(ビデオ) 日本病院薬剤師会 石井 伊都子

8. 講座③-2「学生の指導 (OBE に基づいた薬局実務実習の進め方)」(講演)
東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

【東京都薬剤師会 第 1 回 認定実務実習指導薬剤師 更新講習会】

開催日時：令和7年6月15日（日）13:00～15:30
開催場所：帝京大学 板橋キャンパス 4階講義室
受講者：108名
内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登
2. 「学生が安心して成長できるハラスメントのない実務実習を目指して」（講演）
東京都薬剤師会 副会長 高松 登
3. 関東地区調整機構委員長 挨拶（ビデオ）
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 委員長 中村 智徳
4. 講座①「薬剤師の理念」（ビデオ） 日本薬剤師会 会長 山本 信夫
5. 講座④－1「平成25年度 改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」（講演）
講座④－2「薬学実務実習に関するガイドライン」（講演）
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 浅井 和範

【関東地区調整機構主催 第13回 認定実務実習指導薬剤師 養成講習会】

開催日時：令和7年11月30日（日）13:00～17:50
開催場所：星薬科大学 新星館 2階講義室
受講者：75名
内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 「学生が安心して成長できるハラスメントのない実務実習を目指して」（講演）
東京都薬剤師会 副会長 高松 登
3. 関東地区調整機構委員長 挨拶（ビデオ）
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 委員長 中村 智徳
4. 講座①「薬剤師の理念」（ビデオ） 日本薬剤師会 会長 山本 信夫
5. 講座②－1「平成25年度 改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」（講演）
講座②－2「薬学実務実習に関するガイドライン」（講演）
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 小佐野 博史
6. 講座③－1「学生の指導（法的問題）」（ビデオ） 弁護士・薬剤師 赤羽根 秀宜
7. 講座③－3「学生の指導（改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した
病院実務実習）」（ビデオ） 日本病院薬剤師会 石井 伊都子
8. 講座③－2「学生の指導（OBEに基づいた薬局実務実習の進め方）」（講演）
東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

【東京都薬剤師会 第2回 認定実務実習指導薬剤師 更新講習会】

開催日時：令和7年11月30日（日）13:00～15:20
開催場所：星薬科大学 新星館 2階講義室
受講者：54名
内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登
2. 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構委員長挨拶（ビデオ）
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 委員長 中村 智徳
3. 臨床における実務実習に関するガイドライン 作成の経緯と今後の実務実習への期待
（ビデオ）
文部科学省高等教育局医学教育課 薬学教育専門官（当時） 大久保 正人

4. 臨床における実務実習に関するガイドラインの改訂と今後の実務実習への期待（ビデオ）
厚生労働省医薬局総務課 国際医薬審査情報分析官（当時） 井上 隆弘
5. 薬学教育モデル・コア・カリキュラムと臨床における実務実習に関するガイドライン（ビデオ）
薬学教育協議会 代表理事 本間 浩
6. 平成 25 年度改訂薬学教育モデル・コア・カリキュラムに基づく実務実習とガイドライン
～令和 4 年度改訂への橋渡し～（ビデオ）
薬学教育協議会 認定実務実習指導薬剤師養成研修委員会 小佐野 博史
7. 概略評価（評価ルーブリック）～平成 25 年度版から令和 4 年度改訂への橋渡し～
（ビデオ）
薬学教育協議会 認定実務実習指導薬剤師養成研修委員会 大津 史子
8. トラブルの防止と適切な対応について～ハラスメントを防ぐために～（ビデオ）
薬学教育協議会 専務理事 亀井 美和子

【令和 7 年度 第 1 回 より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ】

開催日時：令和 7 年 8 月 3 日（日）13:00～18:35

開催場所：帝京平成大学 中野キャンパス 4 階講義室

ディレクター：東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 14 名

参 加 者：49 名（1P6S）

参加者内訳：エリア責任者・指導的立場の方 47 名、実務実習委員会委員 3 名

【令和 7 年度 第 2 回 より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ】

開催日時：令和 8 年 2 月 15 日（日）13:00～18:35

開催場所：帝京大学 板橋キャンパス 4 階講義室

ディレクター：東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

帝京大学 薬学部長 荒田 洋一郎

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一

タスクフォース：東京都薬剤師会 役員・実務実習委員会 委員 15 名

参 加 者：86 名（2P10S）

（7）地区薬剤師研修会への支援と都薬アワーの実施

都内 28 地区ごとに、薬剤師を対象に年 2 回の研修会を実施した。研修は都薬アワー、臨床薬学講習、社会保険講習を中心に実施され、都薬アワーに講師を派遣するとともに開催経費の助成を行った。第 1 回の都薬アワーでは、本会の令和 7 年度活動テーマ「2025 年のその先へ～すべてのライフステージで必要とされる薬剤師を目指して～」をもとに「東京都薬剤師会の活動重点項目」「東京都薬剤師会からのお知らせ」「健康食品に関する安全性情報共有事業」「医療安全対策」について本会講師が説明した。

第 2 回の都薬アワーでは、「とーぷらを活用した生涯研修」「実務実習受入態勢の整備」「フラッパー過剰摂取編」「OTC 医薬品の販売に係る規定の見直し」「臨床研究の支援体制と研究手順」「災害時の医療体制と災害時モード」「医薬品提供体制の強化」について説明した。

開催地区および各研修会の参加人数等は【資料2】のとおりである。

また、直扱会員に対しては、都薬アワーのオンデマンド配信を実施した。配信期間は、第1回は令和7年12月29日～令和8年1月5日、第2回は令和8年3月16日～3月23日とし、再生回数はそれぞれ89回、41回（チャンネル登録者数23名）であった。

（8）学術倫理特別委員会の実施・運用

学術倫理特別委員会は、会員薬局、本会の地区及び職域薬剤師会、並びに本会各委員会等が実施する医学薬学領域における調査・研究の倫理的妥当性を審査することを目的として、平成26年に設置された。日本薬剤師会学術大会では第52回（令和元年）より、演題登録時に倫理的配慮に関して確認が求められるようになり、現在では多くの学会で確認が行われている。

令和7年度も、昨年に引き続き倫理的妥当性の確保と手続きの円滑な運用に努めながら、研究内容に応じた適切な審査を実施した。

本年度は3件の審査申請を受け付けた。

（9）次世代薬剤師育成事業の実施

次世代を担う薬剤師の育成及び地域医療において重要な役割を果たす地域薬局の維持を目的として、薬学生や若手薬剤師を対象とした取り組みを進めている。次世代薬剤師育成ワーキンググループの学生委員による企画立案のもと、令和7年12月5日（金）に「薬剤師のリアルを聴いてみよう！」を開催した。都内の薬科大学・薬学部在籍する薬学生を中心に32名が参加し、薬剤師としてのキャリアデザインや、多様な職域で活躍する薬剤師との意見交換を行った。

また、会員薬局に対しては、勤務者の高齢化や後継者不足といった人的資源に関する課題の解消を支援するための取り組みに向け、準備を進めている。次年度以降も、薬学生及び薬剤師のスキルやキャリア段階に応じた支援を継続し、倫理観と深い思考力を備えた薬剤師の育成を図っていく。

（10）オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会の実施等、女性の健康への支援

近年、女性の健康に対する社会的関心及びニーズの高まりを背景に、薬剤師による均質かつ専門的な相談応需体制の整備が求められている。このため、組織的な対応の重要性を踏まえ、女性の健康支援ワーキンググループを設置した。本ワーキンググループでは、女性の健康支援に関する専門知識の向上及び、東京都医師会や東京産婦人科医会等の関係機関との連携強化を図り、必要に応じて適切な医療機関へつなぐ体制の整備を目的とした。今年度は2回開催し、主に発売開始前であった要指導医薬品としての緊急避妊薬に係る内容について協議を行った。

2026年2月2日より要指導医薬品である緊急避妊薬の販売が開始されたことを受け、本会では、適切な販売体制の構築を目的として関係団体との連携強化に取り組んだ。

これまで連携を構築してきた東京産婦人科医会と一層の連携強化を図るとともに、東京都医師会との連携体制を新たに構築し、「緊急避妊薬の販売に係る連携体制について」の合意文書を取り交わした。これにより、東京産婦人科医会の協力の下、東京都医師会が取りまとめる「連携医療機関名簿」の提供を受けるとともに、本会からは「緊急避妊薬販売薬局等名簿」を提供し、相互に定期的な情報共有を実施した。これらの名簿は随時本会を通じて連携をした薬剤師へ共有するとともに、「緊急避妊薬販売薬局等名簿」については厚生労働省へ適宜提出した。

また、要指導医薬品である緊急避妊薬を販売する薬局等は、近隣の産婦人科医等との連携が要件の1つとされていることから、本会ホームページ上に「緊急避妊薬販売薬局等名簿」の申

請フォームを設置し、本会を通じて連携を希望する薬剤師からの申請を受け付けた。申請内容に基づき名簿を作成し、継続的な更新を行った。

昨年度まで本会にて開催してきた「オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会」は、「オンライン診療の適切な実施に関する指針」を踏まえた緊急避妊薬に係る診療の提供体制整備に関する薬剤師及び要指導医薬品たる緊急避妊薬を販売しようとする薬剤師が修了すべき研修が、公益社団法人日本薬剤師研修センターが実施する「緊急避妊薬の調剤および販売に関するeラーニング」とすることが厚生労働省から示されたことから開催を見送った。

2-2 薬局機能の充実対策

(1) 「地域連携薬局」、「専門医療機関連携薬局」の認定に向けた事業の実施と支援

日本医療薬学会では、専門医療機関連携薬局の制度に基づき、「地域薬学ケア専門薬剤師制度」を創設し、基幹施設（病院）と連携施設（薬局）による連携体制の中で、質の高い薬物療法を実践するための研修枠組みを整備している。

例年、日本医療薬学会の依頼に基づいて、次年度4月開始予定の研修希望者（薬局薬剤師）と基幹施設（病院）のマッチングを体制整備して行っている。本年度も調整に向けて基幹施設と協議し受入枠を確保していたが、申請がなかったためマッチングは行われなかった。

(2) 健康サポート薬局の取得に向けた事業の実施と支援

(2-2 (7) 「健康サポート薬局に取り組む薬剤師への研修会A及び研修会Bの実施と各地区での実施への支援」の項を参照)

(3) 基準薬局の認定・更新

基準薬局制度はその発足以来、薬局並びに薬剤師による医薬分業と地域医療の推進の基盤を担ってきたが、平成27年3月末日をもって日薬による基準薬局制度は発展的に解消された。しかし、地域医療に貢献する医療提供施設として基準となる薬局の姿を社会に示し推進していくことは、これからも大変重要であると考えられるため、今後も本会として基準薬局制度を堅持していくこととし、日薬の認定基準に加え独自の基準を定めて、基準薬局中央研修会等を開催し、会員薬局に対して認定取得の推進、指導を行ってきた。また、昨年度見直した判定基準により、健康サポート薬局及び地域連携薬局を目指す薬局の第一歩として今年度新規認定及び更新認定を行った。令和7年度の基準薬局認定数は335薬局であった。前年度に比べ147薬局減少した。

また、令和7年度基準薬局中央研修会を開催した(2-1 (5) ③「令和7年度基準薬局中央研修会の開催」の項を参照)。

(4) 実務実習受入れ態勢の整備と適正な実施

実務実習受入れ態勢の整備と、本会と各エリア間の連携強化を図るため、各地区の実務実習エリア責任者・担当者を対象に、下記のとおり「薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議」(以下、エリア担当者会議)を開催した。

エリア担当者会議では、第1回「より質の高い実務実習を目指すためのアドバンスワークショップ」で議論した、明日から地区で取り組むべき課題と、本会が取り組むべき課題の結果及び対応状況を踏まえ、各エリア間並びに本会との更なる連携を図り、今後の薬局実務実習をより充実したものとするため、各地区の取り組み状況について情報共有と協議を行った。

令和8年度の実務実習受入れに当たり、実務実習における薬局、病院、大学の三者の連携を深め、施設（薬局・病院）での薬学生受入を円滑に行うため、準備や注意事項の伝達を目的と

した「令和8年度 実務実習受入伝達講習会」を下記のとおりオンライン配信で開催した。

今年度の講習会では令和4年度改訂薬学教育モデル・コア・カリキュラムに基づく実務実習とガイドラインから学習者主体の学びのために指導者が心がけることを伝え、実習施設でハラスメントが発生しないために医療人育成における心理的安全性の確保について紹介した。

大学、薬局、病院、それぞれの立場から、薬局・病院で効果的な学習を行うために工夫し学生が成長した事例や大学、薬局、病院での連携や、実務実習の効果的な実習の事例を紹介し、加えて、実務実習受け入れ時の注意点及び、令和6年度の実務実習終了時のアンケート結果について報告した。

本講習会へは、令和8年度薬局実務実習受入薬局の指導に係る全薬剤師をはじめ、各地区の実務実習エリア責任者やエリア担当者に加え、東京都病院薬剤師会との事業連携に関する覚書に基づく連携のもと、東京都内の病院で指導を行っている指導薬剤師、並びに各大学との情報共有を図る目的で関東地区26薬科大学・大学薬学部の実務実習担当教員を招請し、多くの関係者に伝達した。

令和元年度から設置した「都内大学との実習施設情報の共有と対応ワーキンググループ」では、今年度も本会と都内10薬科大学・大学薬学部間で実務実習終了後の実習情報を交換し、実習中のトラブルを早期に防止するための対応策について協議・検討を行った。

【薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議】

開催日時：令和7年11月15日（土）18:00～20:55

開催場所：日本教育会館 8階 第一会議室

出席者：地区薬剤師会役員、各エリア実務実習受入責任者・担当者 56名

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 関東地区調整機構からのお願い～薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂を踏まえて～
関東地区調整機構 委員長 中村 智徳
3. 薬局実務実習受入に関するエリア担当者へのお願い
東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一
4. エリア担当者が支える薬局実務実習とは～令和7年度第1回 より質の高い実務実習を目指すためのADWS のフィードバックを踏まえて～
東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員 高橋 健太
5. より質の高い実務実習を目指すためのADWSを受けて 各エリアにおける取り組み紹介
実務実習における江東区薬剤師会の取り組み 江東区薬剤師会 織田 理佳子
6. より質の高い実務実習を目指すためのADWSを受けて 各エリアにおける取り組み紹介
練馬区薬剤師会の取り組みと今後の施策～より質の高い実務実習を目指して～
練馬区薬剤師会 足立 朋子
7. 【予告】令和7年度第2回 より質の高い実務実習を目指すためのADWS
東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員 山浦 克典
8. 各グループに分かれて情報共有
9. 質疑応答
10. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登

【令和8年度 実務実習受入伝達講習会】

開催日時：令和8年2月1日（日）9:30～12:50

開催方法：オンラインによるライブ配信

受 講 者：497 名（東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員を含む）

受講者内訳：各地区の令和 8 年度実務実習受入施設の指導薬剤師等 452 名、

関東地区 25 大学のうち 24 大学※の薬局実務実習担当教員 45 名

※ 参加大学：国際医療福祉大学、国際医療福祉大学 成田薬学部、城西大学、
日本薬科大学、城西国際大学、千葉科学大学、千葉大学、
東京理科大学、東邦大学、日本大学、北里大学、慶應義塾大学、
昭和医科大学、昭和薬科大学、帝京大学、帝京平成大学、東京大学、
東京薬科大学、星薬科大学、武蔵野大学、明治薬科大学、
横浜薬科大学、新潟薬科大学、湘南医療大学

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 令和 4 年度改訂薬学教育モデル・コア・カリキュラムに基づく実務実習とガイドライン
～学修者主体の学びのために指導者が心すること～
薬学教育協議会 認定実務実習指導薬剤師養成研修委員会 小佐野 博史
3. 医療人育成における心理的安全性の確保
臨床心理士 浅見 大紀
4. 大学がつなぐ、病院と薬局の実務実習
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構
指導薬剤師養成小委員会 委員長 廣原 正宜
5. 令和 4 年度改訂版薬学教育モデル・コア・カリキュラムを見据えた実習環境の整備
～病院実習につなげる薬物治療の個別最適化～
東京都薬剤師会 常務理事 田極 淳一
6. 実習受入における日報・週報の活用と情報伝達能力の育成
総合東京病院 薬剤科 薬剤科長 外石 昇
7. 実務実習受入れに関する注意事項と令和 7 年度実務実習終了時のアンケート結果報告
東京都薬剤師会 常務理事 藤尾 絵美
8. 閉会挨拶 東京都病院薬剤師会 会長 後藤 一美

（５）薬局業務研修会の実施

今年度は、「再び原点に立ち返り、乱世を超えて次の時代を共に築く薬剤師」をテーマに薬局業務研修会を下記のとおり開催した。

【薬局業務研修会】

開催日時：令和 8 年 1 月 25 日（日）12:30～16:00

開催場所：日本教育会館 一ツ橋ホール

受 講 者：399 名（内、会員外 18 名）

内 容：

1. 挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 薬剤師の業務の可視化するためには
厚生労働省保険局 医療課薬剤管理官 清原 宏眞
3. 薬局はどこへ向かうのか ～医療アクセス再設計時代の未来戦略～
一般社団法人 保険薬局経営者連合会 会長 山村 真一
4. 地域で実践する薬剤師の原点 ～地域住民・患者のために～
イイジマ薬局 開設者 飯島 裕也
5. パネルディスカッション

座長：東京都薬剤師会 薬局業務委員会 委員長 竹中 孝行
パネリスト：厚生労働省保険局 医療課薬剤管理官 清原 宏眞
一般社団法人 保険薬局経営者連合会 会長 山村 真一
イイジマ薬局 開設者 飯島 裕也

(6) 薬機法に対応した医薬品等の適正使用の推進及び供給体制整備等に関する周知徹底に資する資料提供

(8. (2) 「『薬事衛生自治指導教本』の作成と講習実施」の項を参照)

(7) 健康サポート薬局に取り組む薬剤師への研修会 A 及び研修会 B の実施と各地区での実施への支援

平成 28 年 4 月に施行された健康サポート薬局については、薬局が健康サポート薬局である旨の表示を行うにあたり、厚生労働大臣が定める基準第三号で規定される常駐する薬剤師の資質に係る「要指導医薬品及び健康食品等の安全かつ適正な使用に関する助言、健康の保持増進に関する相談並びに適切な専門職種または関係機関への紹介等に関する研修」を全て受講した後に発行される研修修了証の添付提出が必須である。日本薬剤師会と日本薬剤師研修センターが共同で、厚生労働省が指定する第三者機関（指定確認機関）である日本薬学会から健康サポート薬局に係る研修の実施機関として確認を受けたことから、本会は、日本薬剤師会との共催で技能習得型《研修会 A》並びに《研修会 B》の開催協力を昨年度に引き続き行い、日本薬剤師会より発出された「健康サポート薬局に係る研修」通知文である「その 86～89」の内容を把握し、地区薬剤師会に伝達した。

また、本会で《研修会 A》及び《研修会 B》を各 1 回開催したほか、地域単位での《研修会 A》を 6 回、開催の共催をした。《研修会 A》は合計 216 名、《研修会 B》は合計 75 名に対して規定に則り受講証明書を発行した。

なお、申し込み方法は、本会ホームページを活用した受講手続きを企画し、電子メールを用いて対応することにより正当かつ的確に事務処理を行った。

【令和 7 年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修 《研修会 A》】

開催日時：令和 7 年 12 月 14 日（日）10:00～14:30

開催場所：帝京平成大学 中野キャンパス

内 容： 司会：東京都薬剤師会 常務理事 小林 百代
自己評価表 受講前チェック

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 基本理念

(1) 「健康サポート薬局の基本理念」（DVD 講義・役職は収録当時）

日本薬剤師会 会長 岩月 進

日本薬剤師会 常務理事 杉村 紀明

(2) 健康サポート薬局の理念～地域包括ケアに対応した薬局・薬剤師～

「私たちが目指す健康サポート薬局の姿」 東京都薬剤師会 理事 吉岡 加織

(3) グループ討議：薬局が地域の資源とどのように繋がるか

東京都薬剤師会 常務理事 小林 百代

3. 当該地域の医療・保健・健康・介護・福祉等の資源と健康サポート薬局の連携

(1) 東京都における健康課題と健康増進施策（健康増進計画を中心に）

東京都保健医療局 保健政策部 健康推進課課長 千葉 清隆

(2) 東京都の医療・保健・健康・介護・福祉等の資源と役割の現状

	東京都薬剤師会 理事	永井 倫典
4. 演習	進行：東京都薬剤師会 常務理事	小林 百代
5. まとめ	東京都薬剤師会 常務理事	小林 百代
6. 閉会挨拶	東京都薬剤師会 常務理事	犬伏 洋夫

(応募・出席状況)

区分	人数	出席・レポート提出 (受講証明書発行数)	一 般	28	98
一般	29	会 員	70		
会員	71	一 般	1		2
応募者計	100	会 員	1		
応募者計					100

【令和7年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修 《研修会B》】

開催日時：令和7年12月14日（日）15:00～19:40

開催場所：帝京平成大学 中野キャンパス

内 容： 司会：東京都薬剤師会 薬局業務委員会 委員 長田 哲治
自己評価表 受講前チェック

- 挨拶 東京都薬剤師会 副会長 宮川 昌和
- 薬局・薬剤師を巡る現状と健康サポート薬局
東京都薬剤師会 理事 吉岡 加織
- 一般用医薬品等を取り巻く現状（DVD 講義・役職は収録当時）
日本薬剤師会 常務理事 岩月 進
- 薬局利用者の状態把握と販売時と販売後の対応（演習）
（DVD 講義・役職は収録当時）

講師：日本薬剤師会 一般用医薬品等委員会 委員長 亀山 貴康
昭和大学薬学部 社会健康薬学講座 医薬品評価薬学部門
准教授 亀井 大輔

演習進行：東京都薬剤師会 薬局業務委員会 委員 長田 哲治
東京都薬剤師会 常務理事 犬伏 洋夫

5. まとめ

6. レポート作成

(応募・出席状況)

区分	人数	出席・レポート提出 (受講証明書発行数)	一 般	20	75
一般	23	会 員	55		
会員	56	一 般	3		4
応募者計	79	会 員	1		
応募者計					79

なお、地区における開催地域及び研修会の参加人数等は【資料4】のとおりである。

(8) 登録販売者研修会への協力

令和6年度をもって本会主催の本研修会（外部研修）を終了したが、開催に係る問い合わせに対し外部開催団体を紹介する等のサポートを実施した。

(9) 高度管理医療機器等営業所管理者等継続研修の実施

開催日時：令和8年1月9日（金）～1月22日（木）

開催方法：オンデマンド配信

修了者：2,090名（内、基準薬局会員236名、会員1,666名、会員外188名）

修了者内訳：東京都1,719名、埼玉県131名、神奈川県123名、千葉県100名、茨城県5名、栃木県3名、山梨県2名、新潟県2名、群馬県1名、京都府1名、愛知県1名、岡山県1名、福岡県1名

内 容：＜日本薬剤師会作成のコンテンツを利用＞

1. 医薬品医療機器等法及び関連法令

公益財団法人 医療機器センター 常務理事 新見 裕一

2. 医療機器の品質管理

一般社団法人 日本医療機器産業連合会 販売・保守管理委員会 委員
浦富 恵輔

3. 医療機器の不具合報告及び回収報告

一般社団法人 日本医療機器産業連合会 PMS 委員会 委員 三田 哲也

4. 医療機器の情報提供及び薬剤師が知っておきたい機器等の話題

公益財団法人 医療機器センター 医療機器産業研究所 主任研究員
本田 大輔

※ 当日資料：令和7年度継続研修テキスト（日本薬剤師会）

(10) 医薬品流通のための連絡協議会の開催

医療用医薬品の適切な流通を目的とし、平成28年より東京医薬品卸業協会の役員と本会役員で本協議会を設立し、医薬品の安定供給に関して連携体制の構築に努めてきた。令和7年度においては、依然として一部医薬品の供給不足が継続しており、関係者間での情報共有や課題認識を模索したものの、新たな制度改正や流通構造の大きな変化等は見られなかったことから、対面での協議会開催には至らなかった。

協議会の意義を踏まえ、必要に応じて迅速に意見交換が可能となるよう、今後も関係機関との情報共有体制を維持し、医薬品供給に関する課題が発生した際には、速やかに協議会の開催や対応ができるよう引き続き準備を整えていく。

(11) 薬局製剤・OTCなどセルフケア・セルフメディケーションの推進による健康サポート機能、適切な医薬品提供体制構築

地域住民の健康維持・増進に繋がるセルフケア・セルフメディケーションへの取り組みが重要なものとなっていることから、具体的かつ地域のニーズに則した健康支援の実践とすべく、セルフケア・セルフメディケーション研修会を下記のとおり開催した。

【セルフケア・セルフメディケーション研修会】

開催日時：令和8年3月15日（日）10:00～13:15

開催場所：帝京大学 薬学部（板橋キャンパス）

参加薬局数：12 薬局（参加者数：27名）

内 容：

- 挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
- 人口減少社会におけるセルフメディケーション支援と薬剤師の使命
一次対応から社会資源への橋渡しまで、地域の健康を支える専門職

イイジマ薬局 開設者 飯島 裕也

3. 薬剤師に求められる OTC 医薬品販売の実践ポイント

～ただ売るではなく「選ばれる」スキル～

株式会社メディカルガーデン OTC・セルフメディケーション推進室

室長 鈴木 伸悟

4. ワークショップ「明日から起こす変化」

5. 発表・振り返り

公益社団法人 東京都薬剤師会 理事 永井 倫典

6. 什器のご案内

日本OTC医薬品協会 担当者

7. ふらっとサークルについての紹介

ふらっとサークル 部長 竹中 孝行

8. 閉会挨拶

公益社団法人 東京都薬剤師会 副会長 宮川 昌和

また、日本薬剤師会より示された「地域医薬品提供体制強化のためのアクションリスト」を受け、東京都内における地域医薬品提供体制の現状把握と課題整理、ならびに地域薬局機能の強化を目的に、厚生労働省「地域医薬品提供体制構築推進事業」を実施した。各地区薬剤師会へのアンケートや担当者会議、二次医療圏ごとのブロック会議、都薬担当者会議を通じて、地区ごとの進捗状況や課題、好事例を共有し、都薬としてのフォローアップ体制を検討した。好事例として、玉川砦薬剤師会で実施されている、薬剤師会非会員や行政と連携した災害時対応や情報共有体制等の事例を検証・共有した。その結果、地域ごとの医薬品提供体制の現状と課題が明確化され、薬局・薬剤師間の共通認識が形成されたとともに、薬剤師会非会員を含めた情報共有や、行政・他職種と連携した体制整備の重要性が再確認された。

(12) 休日・夜間等における医薬品供給体制の整備・拡充

(2-2 (11) 「薬局製剤・OTC などセルフケア・セルフメディケーションの推進による健康サポート機能、適切な医薬品提供体制構築」の項を参照)

2-3 地域医療対策

(1) 東京都の保健医療計画等各種計画への積極的な対応

各協議会等に委員として参画し意見具申するとともに、薬局・薬剤師の役割が計画に反映されるよう働きかけた。

(2) 東京都保健医療計画に対応する地域医療構想調整会議への参加と協力

地域保健医療協議会に委員が参加し、地域医療の課題への対応を協議するとともに、チーム医療の中で、薬局・薬剤師が役割を果たせるよう連携体制の構築に努めた。

(3) 切れ目のない薬物療法の提供に向けた薬・薬連携の推進

【令和7年度 薬薬連携を推進するための研修会～大腸がん患者の薬物療法の理解とフォローアップの実践を学んでみよう～】

開催日時：令和8年3月15日（日）10：00～12：30

開催場所：東京都薬剤師会館 3階会議室（Zoom 配信）

参加者：40名

内容：

1. 開会の挨拶

東京都薬剤師会 副会長 根本 陽充

2. 【第一部】

基礎講演① 大腸がんの治療の流れを学ぼう 診断から治療とガイドライン紹介

がん研究会有明病院 清水 久範

基礎講演② 大腸がん薬物療法のトピック 抗がん薬投与のレジメンの紹介

東京都薬剤師会 薬・薬連携委員会委員 黒田 雅子

基礎講演③ 大腸がん薬物療法で起こる有害事象を学ぼう

抗がん薬により起こる有害事象とその重症度評価の考え方

東京大学医科学研究所附属病院 黒田 誠一郎

3. 【第二部】 仮想症例からエクセル版トレーシングレポートを用いて実践してみよう

【登壇者】

がん研究会有明病院 清水 久範

東京都薬剤師会 常務理事 會田 一恵

東京都薬剤師会 薬・薬連携委員会委員 黒田 雅子

東京大学医科学研究所附属病院 黒田 誠一郎

4. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介

（４）地域包括ケアシステムへの参画に向けた在宅医療・介護提供体制の整備

昨年度に引き続き、令和 7 年度も都内の薬局又は薬剤師に対し、「在宅医療に関する知識・技能を有する人材の確保」、「地域連携促進に向けた体制構築及び関係者との協力関係の構築」、「地域住民に対するかかりつけ薬剤師・薬局機能の普及啓発」を実施し、薬局・薬剤師の地域包括ケアシステムへの参加促進を目的とした「地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業」を東京都より受託した。

当該委託事業実施要領や地域支援事業に関する情報について、地区薬剤師会を通じて会員へ周知するとともに、「薬局・薬剤師の機能強化事業 地区担当者会議」を開催し、前年度に各地区薬剤師会が実施した取組の報告及び本年度事業の説明を行い、各地区薬剤師会に対して事業の実施を依頼した。

また、新たな薬局機能の活用に向けた基盤整備及び多職種連携の強化を目的として、「在宅訪問ステップアップ研修会」を実施した。本研修会は、在宅医療への参画を検討している薬剤師及び参画しているものの経験が浅い薬剤師を対象に、基礎的知識や各種様式、在宅で使用する医療材料の取扱い等について解説する基礎編と、特定テーマに基づき医師、薬剤師、訪問看護師等を講師として講義及びシンポジウムを行うステップアップ編により構成した。基礎編はオンデマンド配信により実施し、ステップアップ編は2回開催した。

無菌調製技能習得研修会においては、従来と同様に都内薬系大学と連携し、講義及び実習を組み合わせた基礎研修（於：帝京平成大学）並びに基礎研修修了者を対象としたステップアップ研修（於：帝京大学）を実施した。基礎研修では無菌調製に関する基本的知識及び手技の習得を目的とし、ステップアップ研修では在宅における緩和ケアに関する知識及び疼痛管理における輸液ポンプ操作等の実践的手技の習得を目的として実施した。

また、令和3年度から、服薬情報等提供書（トレーシングレポート、以降 TR）により保険薬局から医療機関へ積極的に服薬情報等を提供できる環境を整備して、患者の服薬状況等の一元的・継続的な把握を進め、質の高い医療の提供を目指すことを目的とした「薬薬連携推進事業」を実施している。令和6年度までの事業結果をふまえ、本年度は薬薬連携の体制整備のさらなる推進と質の向上を図るべく、11月30日に薬薬連携実践推進担当者研修会議にて12医療圏の薬局・病院薬剤師を受講者として「入退院時の薬薬連携」をテーマにSGDを行った。2月21

日には糖尿病の服薬支援に絡めて TR の書き方と患者さんへの「質問力」をテーマに薬薬連携実践推進研修会を開催した。また、令和 8 年 3 月に「薬薬連携推進関係者連絡会」を開催し、今年度の取り組みの結果について報告した。

地区における取組としては、「薬局・薬剤師の機能強化事業 地区担当者会議」において事業概要の説明を行った後、各地区薬剤師会において計画に基づき研修会等を実施した。多職種連携による訪問服薬指導の推進に向けた地域薬局連携研修（Ⅱ-a①）は 27 地区、無菌調剤室設置施設における実地調製研修（Ⅱ-a②）は 24 地区、地域包括ケアシステムの構築に向けた多職種連携連絡会（Ⅱ-a③）は 29 地区で実施した。また、地域連携構築に向けた多職種間の連携促進・啓発（Ⅱ-b）は 30 地区薬剤師会において実施した。

地域薬局間連携研修及び地域連携構築支援事業に関する開催地区及び各研修会の参加人数等は【資料 3】のとおりである。事業報告地区数については前年度と同程度で推移しており、同一地区における研修会・講習会の複数回開催も見られる。

【地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業 地区担当者会議】

開催日時：令和 7 年 7 月 5 日（土）18:00～19:40

開催場所：スタンダード会議室神田店 6 階ホール

参加人数：43 地区 70 名

研修内容：

1. 開会挨拶

東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. 令和 7 年度 東京都委託事業について

東京都保健医療局 健康安全部 薬務課 事業連携担当 山田 道子

3. 令和 6 年度事業報告・令和 7 年度事業について

東京都薬剤師会 常務理事 會田 一恵

4. 江戸川区薬剤師会－令和 6 年度事業報告

公益社団法人江戸川区薬剤師会 理事 佐々木 章吾

5. 小平市薬剤師会（西武）－令和 6 年度事業報告

一般社団法人小平市薬剤師会 理事 三澤 祐大

6. 【質疑応答】シンポジウム形式

座長：東京都薬剤師会 常務理事 伊藤 威

東京都薬剤師会 常務理事 會田 一恵

東京都保健医療局 健康安全部 薬務課 事業連携担当 山田 道子

公益社団法人江戸川区薬剤師会 理事 佐々木 章吾

一般社団法人小平市薬剤師会 理事 三澤 祐大

7. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 根本 陽充

【令和 7 年度 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業 関係者連絡会】

開催日時：令和 8 年 3 月 2 日（月）18:00～19:40

開催場所：東京都薬剤師会館 4 階会議室（Zoom 配信）

出席者：8 名

（委員）東京都医師会

東京都看護協会

東京都訪問看護ステーション協会

東京都介護支援専門員研究協議会

理事 佐々木 聡

事業部長 家崎 芳恵

副会長 橋爪 健二

理事長 相田 里香

東京都薬剤師会
東京都薬剤師会
東京都薬剤師会
(オブザーバー) 東京都保健医療局 健康安全部薬務課 事業連携担当 山田 道子
副会長 根本 陽充
常務理事 伊藤 威
常務理事 會田 一恵

内 容：

1. 挨拶
2. 委員・出席者自己紹介
3. 東京都委託事業について
4. 東京都薬剤師会における令和7年度 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業の取組について
5. 令和7年度 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業
～練馬区における取組事例～
6. 質疑応答

【在宅訪問ステップアップ研修会】

令和7年度 在宅訪問ステップアップ研修会 基礎編（オンデマンド配信）

開催期間：令和8年2月20日（金）～令和8年3月20日（金）

開催方法：オンデマンド配信

受講者数：289名

研修内容：

「在宅医療における薬剤師の役割」

東京都薬剤師会 常務理事 伊藤 威

「在宅訪問における基本的な考え方と実務」

東京都薬剤師会 理事 町田 奈緒子

「在宅医療における薬剤師業務の実際」

在宅医療支援ワーキンググループ 委員

サンロクゴ訪問薬局目黒店 佐々木 健

「在宅療養者への対応と多職種連携」

在宅医療支援ワーキンググループ 委員

医療法人社団三育会 新宿ヒロクリニック 齊藤 直裕

【令和7年度 第1回ステップアップ研修会】

開催日時：令和7年11月20日（木）19:00～21:00

開催場所：東京都薬剤師会 4階会議室・Zoom ウェビナー

参加人数：291名

研修内容：

1. 開会挨拶

東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. 東京都保健医療局より

東京都保健医療局健康安全部 山田 道子

3. 講義

「個人宅だけじゃない！薬局薬剤師が支える施設での在宅医療」

在宅医療支援ワーキンググループ 委員 高木 知紀

「住み慣れた地域で適切なサービスを提案する為の相互理解とは？」

SOMPO ケア株式会社 首都圏業務部 田頭 祐貴

「シンポジウム ～質疑応答～」

(講師) 在宅医療支援ワーキンググループ 委員長 浅見 恭史
在宅医療支援ワーキンググループ 副委員長 勝野 純子

4. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 根本 陽充

【令和7年度 第2回ステップアップ研修会】

開催日時：令和7年12月4日（木）19:00～21:00

開催場所：東京都薬剤師会 4階会議室・Zoom ウェビナー

参加人数：294名

研修内容：

1. 開会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 根本 陽充

2. 講義

「薬局薬剤師の精神疾患在宅医療への参画 ～その背景と展望～」

東京都薬剤師会 常務理事 伊藤 威

「精神疾患と在宅」

M. Crew 訪問看護ステーション 前田 昌紀

「精神疾患を抱える在宅療養者への薬局としての関わり方 ～実際の経験も踏まえて～」

在宅医療支援ワーキンググループ 委員 坪田 留央依

「シンポジウム ～質疑応答～」

(講師) 在宅医療支援ワーキンググループ 委員長 浅見 恭史
在宅医療支援ワーキンググループ 委員 齊藤 直裕

3. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 常務理事 伊藤 威

【無菌調製技能習得研修会（ステップアップ研修）】

開催日時：令和8年2月15日（日）10:00～16:10

開催場所：帝京大学 薬学部 409号室、多目的実習室

参加人数：29名（修了証配付29名）

研修内容：

＜講義＞

1. 開講にあたって

東京都保健医療局 健康安全部 薬務課長 中島 真弓

帝京大学 薬学部長 荒田 洋一郎

東京都薬剤師会 副会長 根本 陽充

2. 疼痛管理におけるPCAポンプの役割

東京都薬剤師会 在宅医療支援ワーキンググループ 委員 高木 知紀

3. 緩和医療の基礎知識

帝京大学 薬学部 教授

帝京大学医学部附属病院 薬剤部 部長 安野 伸浩

＜実習＞

1. 無菌調製の基本操作と持続注入ポンプの薬液調製

東京都薬剤師会 在宅医療支援ワーキンググループ 委員長 浅見 恭史

- 東京都薬剤師会 在宅医療支援ワーキンググループ 委員 齊藤 直裕
2. CADD-Solis ポンプの機能と操作方法
ICU メディカルジャパン株式会社 Infusion Systems Specialist Team 田中 泉
3. 閉会式（統括・修了証の授与）

【無菌調製技能習得研修会（基礎研修）】

＜講義＞

開催日時：令和8年2月11日（水・祝）9:30～15:00

開催形式：オンライン配信

受講者数：87名

講義内容：

1. 開講にあたって

東京都保健医療局 健康安全部 薬務課長 中島 真弓

帝京平成大学 薬学部長 亀井 美和子

東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. 在宅医療における無菌調剤の現状

東京都リハビリテーション病院 薬剤科長 越田 晃

3. 輸液の基本知識

株式会社大塚製薬工場 学術部学術担当 関東ブロック 野村 武晴

4. 中心静脈栄養法（TPN）の基本

帝京平成大学 薬学部 教授 島崎 学

5. 注射薬の混合調製を始めるに際して

帝京平成大学 薬学部 教授 清野 敏一

＜実習（1）＞

開催日時：令和8年3月1日（日）9:30～17:30（A班 9:30～14:50、B班 12:45～17:35）

開催場所：帝京平成大学 中野キャンパス

303/304 講義室、313 無菌調剤実習室、318 調剤実習室

参加人数：50名（A班25名、B班25名）

＜実習（2）＞

開催日時：令和8年3月22日（日）9:30～17:35（C班 9:30～14:50、D班 12:45～17:35）

開催場所：帝京平成大学 中野キャンパス

303/304 講義室、313 無菌調剤実習室、318 調剤実習室

参加人数：30名（C班17名、D班13名）

実習内容：

1. 手洗い、手袋の脱着、アンプル、バイアル、シリンジの取扱い、凍結乾燥品の取扱い、薬液の採取など
2. 混合調製の実践（準備、手洗い、手袋装着、混合調製、鑑査、清掃）
3. 総括・修了証授与

【東京都 薬業連携実践推進担当者研修会議（SGD）】

開催日時：令和7年11月30日（日）13:00～17:00

開催場所：AP 日本橋 A+B ルーム

出席者：62名

内容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 宮川 昌和
2. 東京都 薬薬連携実践推進担当者研修会議の目的について
東京都保健医療局健康安全部 薬務課 山田 道子
3. 入退院時の薬剤師連携の重要性と連携の取り組み
～入退院時の情報共有に関する診療報酬を含めて～
NTT 東日本関東病院 薬剤部 薬剤主任 田沼 道也
4. 入退院時の薬薬連携運用事例―服薬情報等提供料 3 の事例について―
東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 薬剤部 主任 伊東 充
5. 趣旨・作業説明 東京都薬剤師会 薬・薬連携委員会 委員 松本 亜矢
6. アイスブレイク
スモールグループディスカッション (SGD)
1) 入退院時に必要な情報、やり取りについて
2) 退院後のフォローアップの情報共有は何か重要か？
3) わたしたちの地域が目指す入退院時薬薬連携のカタチ
7. (プロダクト) 発表 5 分×6 グループ＋全体討論
8. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 宮川 昌和

【東京都 薬薬連携実践推進研修会（全体講習会）】

開催日時：令和 8 年 2 月 21 日（土）16:00～18:35

開催場所：東京都薬剤師会館 3 階（Web 併用）

出席者：186 名

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 薬薬連携実践推進事業について
東京都保健医療局健康安全部 薬務課 事業連携担当 山田 道子
3. 東京都薬剤師会 薬薬連携推進事業紹介
～R3 年度からの「薬薬連携推進事業」のながれと R7 年度の結果報告～
東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介
4. 糖尿病患者さんの実際の指導、薬物療法の注意点、フォローアップ、トレーニング
レポートについて
株式会社大和調剤センター 取締役／糖尿病薬物療法認定薬剤師 森 貴幸
5. 糖尿病服薬支援に活かす薬剤師の『質問力』
～患者さんの“やる気”と“自己決定”を引き出す問いかけ～
国立がん研究センター中央病院 総合内科（糖尿病腫瘍科）長 大橋 健
6. シンポジウム～糖尿病患者へのフォローアップの視点
座 長：東京都薬剤師会 理事 町田 奈緒子

【登壇者】

国立がん研究センター中央病院 総合内科長（糖尿病腫瘍科）長 大橋 健
株式会社大和調剤センター 取締役／糖尿病薬物療法認定薬剤師 森 貴幸
東京都薬剤師会 常務理事 會田 一恵

東京都薬剤師会 理事

鈴木 真吾

7. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 宮川 昌和

【薬業連携推進関係者連絡会】

開催日時：令和8年3月24日（火）18:00～19:00

開催場所：東京都薬剤師会館4階会議室（Zoom ウェビナー併用）

出席者：8名（オブザーバー2名含む）（Zoom 参加※）

（委員）東京都医師会 理事

佐々木 聡

東京都病院薬剤師会 副会長

工藤 貴弘

東京都病院薬剤師会 理事

清水 久範

東京都薬剤師会 副会長

宮川 昌和※

東京都薬剤師会 常務理事

松本 雄介

東京都薬剤師会 常務理事

會田 一恵※

（オブザーバー）東京都保健医療局 健康安全部薬務課 事業連携担当

山田 道子※

東京都薬剤師会 理事

篠原 高雄※

内 容：

1. 開会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 宮川 昌和

2. 委員・出席者自己紹介

3. 東京都委託事業 「令和7年度薬業連携推進事業」について

東京都薬剤師会 常務理事 松本 雄介

4. 質疑応答

5. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 宮川 昌和

2-4 医療安全対策

（1）薬機法等改正に伴う体制の整備

薬局における医薬品の業務に係る医療の安全を確保するための基本理念及び安全確保に関する具体的方策等の周知徹底を図るために、薬学講習会において「医療安全管理講座・災害時のリスク回避に配慮した薬剤師の支援活動について」の講習を行った（2-1（5）「薬学講習会等各種講習会の開催②」の項を参照）。

（2）薬局版ヒヤリハット事例収集分析事業への協力と会員薬局登録及び報告促進等調剤事故防止対策の徹底

調剤報酬における特掲診療料の「地域支援体制加算」の施設基準では、実績要件に、疑義照会により処方変更がなされた結果、患者の健康被害や医師の意図した薬効が得られないことを防止するに至った事例を提供した実績を、薬局機能情報提供制度において「プレアボイド事例の把握・収集に関する取組」として「有」とすることが求められている。このことにより、日本医療機能評価機構が運営するヒヤリ・ハット事例報告登録薬局に登録し事例を報告する参加薬局は年々増加をしている。2025年12月末日現在の都内参加薬局数は、5,583件（参考：2024年12月5,317件・2023年12月5,333件・2021年12月4,867件）となった。

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業第32・33回報告書及び2024年報を地区薬剤師会へ周知した。

直近の第33回報告（報告期間2025年1月～6月）において、事業参加登録は48,183薬局、調剤に関して8,306事例、疑義照会に関して40,006事例、他計48,000余事例が報告されてい

る(参考:2024 年比較 46,415 余薬局、調剤8,565 事例、疑義照会 41,166 事例、他合計約 50,000 事例)。

ほかに、医療事故情報収集等事業の「医療安全情報」№221～№232 と報告書第 80～84 回の薬剤関連部分を情報提供し、薬局における事故未然防止の周知を図った。

(3) 調剤過誤発生後の的確な対応と弁護士紹介

平成 27 年に医療事故調査制度が施行され、東京都に設立された医療事故調査等支援団体連絡協議会が公表した提言を回覧した。

調剤過誤でトラブルとなり相談のあった件について顧問弁護士への相談の橋渡しを行った。

(4) 東京都医療安全支援センターへの協力

令和 7 年度中に薬局・薬剤師に対する苦情は 4 件受付けている。苦情の内容として、薬局での調剤ミスに関すること 1 件、薬剤師の接遇に関すること 2 件、医薬品の在庫不足に関すること 1 件であった。

(5) 使用済み注射針回収事業の継続と今後のあり方の検討

使用済み注射針回収事業は東京都全域の地区薬剤師会で実施継続されている。事業開始以来 23 余年が経過し、患者や地域住民、地域行政にも事業の意義が広く浸透している。

令和 7 年度は、回収専用容器を 14 万個作成し、地区薬剤師会あるいは地区薬剤師会の事業を支援する行政に対して有償頒布を行うとともに、医薬品空容器を使用済み注射針回収容器として再利用するための専用シール、容器封緘シールを作成・配布した。併せて、新規参加薬局 115 件に対しても事業参加支援を行った。なお、都内全域で 18 万 4 千本強（昨年度より 6.2% 増加）の容器が回収されたとの報告を地区薬剤師会より受けた。

また、在宅医療廃棄物、特に昨今の針一体型注射器の普及に伴い、その適正処理に関する現状及び課題について、東京都環境局担当者と本会担当役員間で情報共有を図ると共に、東京都環境局へ今後の更なる協力への働きかけを行った。

(6) 薬剤イベントモニタリング (DEM) 事業への協力

DEM 事業は、日本薬剤師会において 2002 年度より、薬局が医薬品の適正使用に一層貢献することを目的として実施されている事業である。

この事業は「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、調査対象医薬品（令和 7 年度は 10 薬剤）を使用した患者に発生したイベントの内容を調査するとともに、その発生が新薬（4 薬剤）と比較薬（6 薬剤）の間で異なるか等についても調査が行われた。

DEM 事業の実施にあたり、地区薬剤師会を通じて、DEM 事業周知のための薬局用説明書等を会員薬局に配布し、データ収集への協力を呼びかけた。また、本会ホームページ（会員用）に日薬が用意した報告画面へのリンクを作成するなど適宜整備を行った。

2-5 都民への広報対策

(1) 健康サポート薬局、かかりつけ薬剤師・薬局の役割等、各種事業の都民への周知

「薬と健康の週間」の時期に合わせ、東京都が作成した「かかりつけ薬剤師・薬局」及び「健康サポート薬局」等の機能を説明したチラシを、店内外に分かりやすく示せるよう会員薬局に配布し、都民への周知を行った。

(2) 「地域連携薬局」、「専門医療機関連携薬局」認定制度の都民への周知

地域における薬局の機能分化と連携体制の強化を目的として、現在「地域連携薬局」及び「専門医療機関連携薬局」の認定制度が運用されている。本会においては、これら制度に対する都民の理解促進を目的として周知を行った。制度の概要や認定薬局の役割をわかりやすく伝えるリーフレットを作成し、会員薬局を通じて配布を行ったほか、「薬と健康の週間」の街頭相談所等で個別相談を活用し、認定薬局の機能及び利用方法に関する説明を行った。

(3) 安全・適正な医薬品使用のための情報提供

「令和7年度 東京都重複・多剤服薬者対策に向けた連携構築支援事業」

本事業は、令和2年度から令和4年度までモデル事業として実施され、その成果と課題を踏まえ、令和5年度以降は対象自治体の拡大を図りながら実施している。令和5年度は4区市への支援から開始し、次年度に向けた事前調整を進めた結果、令和6年度は21区市町村、令和7年度は20区市町村へと支援対象が拡大した。これにより、3年間で計43区市町村において、自治体と地区薬剤師会との連携による重複・多剤服薬者対策を推進した。

本事業は、参加を希望した自治体の実施する重複・多剤服薬者対策において、地区薬剤師会との連携を深めることを目的として実施した。自治体においては、服薬情報通知の送付や訪問等による取組が行われているが、保健指導への接続や効果把握が十分でない等の課題が見られる場合もあることから、本事業においては、対象者抽出基準の見直しや服薬情報通知の工夫、服薬指導に関する助言を行った。都薬剤師会は、各自治体及び地区薬剤師会における取組状況を踏まえ、他地区の事例も参考としながら助言を行うとともに、自治体と地区薬剤師会の連携に係る後方支援を行った。

本年度の事業に参加した自治体は【港区・新宿区・世田谷区・三鷹市・青梅市・福生市・羽村市・あきる野市・稲城市・国立市・東村山市・東久留米市・大島町・利島村・神津島村・八丈町・青ヶ島村・新島村・三宅村・御蔵島村】の20自治体であり、各地区薬剤師会との打合せ会等を通じて、重複・多剤服薬者対策に関する支援、助言を受けた。

3か年の事業成果を踏まえ、次年度においては、連携の定着に加え、普及啓発を含めた事業が実施される予定である。

(4) 安全・適正な医薬品使用のための「お薬手帳・電子お薬手帳」普及啓発

健康サポート薬局の基準において、かかりつけ薬局としての基本的機能におくすり手帳の活用が位置付けられている。近年は電子お薬手帳の活用も進んでいる一方で、紙媒体は災害時や緊急時においても情報を確認できるといった利点がある。これらを踏まえ、各薬局が都民への情報提供に積極的に取り組めるよう、おくすり手帳（改訂版）を頒布した（8,200冊（前年度約9.1千冊、一昨年度約9.7千冊））。

3. 医療保険対策

3-1 医療保険対策

(1) 医療保険等関連情報の収集と伝達

調剤報酬の請求等に関する質問については随時回答し、適正な調剤報酬の確保に務めた。なお、下記の質問受付回数は計1,600件を上回った。

また、各種の医療保険関連通知、制度改正などはその都度地区薬剤師会に伝達した。

【月別質問件数】

月	質問件数	月	質問件数	月	質問件数
4 月	162	8 月	96	12 月	148
5 月	130	9 月	148	1 月	106
6 月	145	10 月	156	2 月	118
7 月	132	11 月	113	3 月	166

【関東信越厚生局管内 10 都県薬剤師会社会保険担当者協議会】

関東信越厚生局管内 10 都県薬剤師会社会保険担当者協議会は、年 1 回 1 都 9 県持ち回り開催しており、令和 7 年度は新潟県薬剤師会が主催となり開催した。令和 7 年 12 月 14 日開催の会議に、本会から医療保険担当役員 1 名、医療保険委員会委員 1 名が出席し、各都県薬剤師会提出の調剤報酬改定に伴う問題点等について協議を行った。

【薬局薬剤師のためのコンプライアンス研修会】

令和元年度より管理薬剤師を対象として、薬剤師が社会に対して果たすべき責務、管理薬剤師に求められる薬局管理のあり方や法令遵守事項等について解説する研修会を東京都との共催で実施している。

令和 7 年度は都内薬局に従事する薬剤師に対し、今般の薬剤師の役割の変化を踏まえ、それに対する気づきや行動変容を求める内容で東京都との共催により下記のとおりオンライン（オンデマンド配信）で開催した。

配信期間：令和 8 年 2 月 24 日（火）～3 月 19 日（木）

開催方法：オンデマンド配信

視聴申込者：2,355 名

内 容：

1. 本研修会の趣旨について
東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
東京都保健医療局健康安全部 薬務課長 中島 真弓
2. 健康保険法・薬担規則における留意事項等について
関東信越厚生局 医療課 薬剤指導官 津田 亮
3. 薬機法改正等について
東京都保健医療局健康安全部 薬務課
課長代理（監視計画・法改正担当） 伊東 浩子

（2）適正な保険請求業務の指導

（3－1（3）「「国民健康保険調剤必携」等保険調剤関連資料の作成・検討」の項を参照）。

（3）「国民健康保険調剤必携」等保険調剤関連資料の作成・検討

令和 8 年 6 月から実施される調剤報酬改定等に係る算定要件の内容等を掲載した「国民健康保険調剤必携」を発行した。調剤報酬点数とその算定要件、療養担当規則等の改正点、調剤報酬明細書記載要領等について掲載し、地区薬剤師会を通じて全会員保険薬局に配布し適正な請

求の確保を図った。

また、調剤報酬点数表一覧を作成し、患者が閲覧できる「薬局内の掲示物」として、地区薬剤師会を通じてすべての会員保険薬局に配布を行った。

（４）社会保険地区指導者等の育成及び協議会の開催

地区の医療保険指導者に対して令和７年度医療保険地区指導者研修会を開催し、調剤報酬の正しい理解と地区会員に対する伝達及び周知を依頼した。また、保険薬局における保険薬剤師の質的向上及び保険調剤の適正化を図ることを目的として、調剤の取扱いや調剤報酬の請求等に関して、地区において先駆的な立場を目指す若手地区会員を対象とした医療保険指導者養成講座を開催した。

【医療保険地区指導者研修会】

開催日時：令和８年３月２１日（土）１８：００～２０：００

開催場所：TKP 神田ビジネスセンター ４０１ 会議室

受講者：４９名

内 容：

- 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
- 「令和８年度調剤報酬改定等に関する内容解説」 東京都薬剤師会 常務理事 會田 一恵
- 質疑応答

【医療保険指導者養成講座】

開催日時：令和８年２月８日（日）１２：００～１６：００

開催方法：TKP 神田ビジネスセンター ４０１ 会議室

受講者：３１名

内 容：

１１：４５ 受付・参加者集合			
１２：００ ～ １２：０５	P	挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫	５分
１２：０５ ～ １２：１０	P	「主旨・アイスブレイク作業説明」 東京都薬剤師会 理事 永井 倫典	５分
１２：１０ ～ １２：３０	S	SGD （アイスブレイク）	２０分
１２：３０ ～ １３：２５	P	基調講演 「調剤報酬改定に見る薬学的管理について考える」 東京都薬剤師会 医療保険委員会 委員長 伊澤 慶彦	５５分
１３：２５ ～ １３：３０	P	「作業説明①」 東京都薬剤師会 医療保険委員会 副委員長 山田 弘志	５分
１３：３０ ～ １４：１５	S	SGD （４Ｇ）	４５分
１４：１５ ～ １４：４０	P	発表・討論（発表４分×４Ｇ、討議１０分）	２５分
１４：４０ ～ １４：４５	P	「作業説明②」 東京都薬剤師会 常務理事 會田 一恵	５分
１４：４５ ～ １５：３０	S	SGD （４Ｇ）	４５分

15:30 ～ 15:55	P	発表・討論（発表4分×4G、討議10分）	25分
15:55 ～ 16:00	P	総括・閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 根本 陽充	5分

（５）保険薬局の経営等に関する各種調査

令和7年度は、

- ・『令和6年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和7年度調査）』
- ・『令和7年度医薬品価格調査及び特定保険医療材料価格調査』
- ・『第25回医療経済実態調査』

等の調査について、無作為に抽出された調査対象の会員薬局等に日本薬剤師会の依頼により、地区薬剤師会に周知依頼及び薬局からの問い合わせ等の対応を行った。

（６）後発医薬品の使用促進と後発医薬品データベースの充実

後発医薬品の安定供給については、会員から寄せられた苦情などの情報を収集し、厚生労働省医政局経済課にその都度情報提供を行っている。令和7年度は99件の意見及び情報が寄せられ、厚生労働省並びに日本薬剤師会に情報提供を行った。

後発医薬品比較サイトの登録医薬品データの更新及び「薬価基準新規収載品」の追加登録を行い、最新情報の提供に努め、第17回目となる地域医薬品使用実態調査から得られた個々の後発医薬品の調剤回数を本サイトデータに反映した。

（７）地域医薬品使用実態調査の実施

東京都内において処方箋により交付されている医薬品の使用実態、すなわち交付された医療用医薬品の医薬品名、調剤回数、調剤数量及び備蓄薬局数並びにその医薬品がどのような特別な作業を伴う調剤（例えば、無菌製剤処理、自家製剤又は計量混合など）あるいはどのような薬学的管理（服薬管理指導、かかりつけ薬剤師指導、各種情報提供、在宅患者訪問薬剤管理指導など）を伴って患者に交付されたかなど、地域における医薬品の使用実態と調剤実態を明らかにすることを目的として第17回目を実施した。

さらに、後発医薬品の使用実態を明らかにし、過去のデータと比較することで後発医薬品使用の進捗状況を把握するとともに、都民への後発医薬品に関する正しい知識の普及と安定供給のための基礎資料を得ることを目的とした。

電子媒体で調剤報酬を請求する薬局を対象とし、地区薬剤師会が区市ごとに保険薬局数の1/5に相当する任意に選定した薬局、都内全体では1,200薬局を調査対象とした。

調査対象月及び対象者は、令和7年10月調剤分の被用者保険、国民健康保険及び後期高齢者医療保険の加入者とし、調査対象薬局の電子レセプトデータから“患者”及び“調剤した薬局”並びに“処方箋発行医療機関”にかかわる一切の個人情報を電磁的に削除した医薬品等に関するデータのみを抽出し、解析用データとした（7.（3）「後発医薬品の備蓄に関する情報提供」の項を参照）。

（８）広域医療機関等、処方箋応需に係る諸問題への対応

台風、大雪等による災害の被災者に係るマイナ保険証又は資格確認書等の提示等、公費負担医療の取扱い及びオンライン資格確認等システムについて周知を行った。

（９）対人業務の充実に向けた医療DX化への対応

電子処方箋やオンライン資格確認等の導入・取扱い方法や従来の保険証からマイナンバーカードによる保険証（マイナ保険証）への移行等について周知を行った。

3-2 介護保険制度の適正な運用の指導と高齢者対策

(1) 在宅薬剤管理業務の拡充のための調査・研修会の実施

急速な高齢化に対応すべく構築が進められている地域包括ケアシステムに関し、在宅療養への薬局・薬剤師の参画を推進することを目的に「在宅療養支援促進事業」を実施している。令和7年度はその一環として「在宅療養多職種連携研修会」を開催した。本研修会は「在宅と災害」をテーマとし、災害時における在宅療養者支援の課題を踏まえ、行政、医療、訪問看護、介護の各分野の講師による講演及び総合討論を実施した。災害下では、在宅療養中の患者や家族が避難や支援を受けにくく、医療依存度の高い者への継続的な医療提供、情報共有、薬剤や医療機器の確保等が課題となることから、具体的な事例や経験を踏まえ、平時の備えと災害時の対応について多職種の視点から検討を行った。

【在宅療養多職種連携研修会】

開催日時：令和8年1月17日（土）15:00～17:35

開催場所：エッサム神田ビル2号館 4階大会議室 2-401

受講者数：会場 27名、配信 348名

内 容：

司会：東京都薬剤師会 理事 永井 倫典

1. 開会挨拶

東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. 「東京におけるこれからの災害医療」

東京都保健医療局医療政策部 災害医療担当課長 上村 淳司

3. 「災害と在宅医療～能登半島地震における薬剤師の取り組み～」

石川県 かがやきクリニック 小林 星太

4. 「災害時における訪問看護の役割と在宅療養者支援」

東京都訪問看護ステーション協会 田中 千賀子

5. 「災害時におけるケアマネジメントと在宅療養者支援

～東京で命と生活を守る多職種協働～」

東京都介護支援専門員研究協議会 理事 西澤 文恵

6. 総合討論

座長：在宅医療支援ワーキンググループ 委員長 浅見 恭史

在宅医療支援ワーキンググループ 委員 前田 桂吾

7. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 根本 陽充

4. 医薬品等薬事情報対策

(1) 会員に対する安全・適正な医薬品使用の啓発のための情報収集・提供

①薬事情報課（医薬品情報室）利用状況

薬事情報課は医薬品情報室として設置されて以来 50 年目を迎えた。医薬品情報のみならず医療情報、健康食品情報、アンチ・ドーピング、薬事関連法規等の各種の薬事情報の収集・提供に努めている。また、インターネット等を利用して会員に対する情報提供を充実させ、利用

者へのサービス向上に取り組んでいる。

【会員等に対する情報活動（令和7年4月～令和8年3月）】

（問合せ件数）

令和7年 4月	26件	10月	38件
5月	27件	11月	32件
6月	13件	12月	22件
7月	19件	令和8年 1月	30件
8月	11件	2月	18件
9月	17件	3月	29件
		合 計	282件

（問合せ者別集計）

①薬局	38人	(14.6%)
②病院・診療所	4人	(1.5%)
③卸	0人	(0%)
④管理センター	1人	(0.4%)
⑤製薬会社	2人	(0.8%)
⑥医療関係者	9人	(3.4%)
⑦その他	207人	(79.3%)
合 計	261人	

（問合せ事項別集計）

	全体		医療従事者・関係者		一般	
①保険・法規関係	24件	(8.5%)	21件	(37.5%)	3件	(1.3%)
②医薬品一般	81件	(28.7%)	2件	(3.6%)	79件	(35.0%)
③副作用・中毒	18件	(6.4%)	0件	(0%)	18件	(8.0%)
④薬理・疾病	13件	(4.6%)	0件	(0%)	13件	(5.7%)
⑤薬剤学的事項	5件	(1.8%)	2件	(3.6%)	3件	(1.3%)
⑥製剤識別	0件	(0%)	0件	(0%)	0件	(0%)
⑦ドーピング	105件	(37.2%)	27件	(48.2%)	78件	(34.5%)
⑧その他	36件	(12.8%)	4件	(7.1%)	32件	(14.1%)
合 計	282件		56件		226件	

問合せ者数、問合せ件数ともに前年とほぼ同数であった。

問合せ者別にみると、一般都民からの問合せがもっとも多く、次いで薬局薬剤師、医療関係者と続く傾向は変わらない。

問合せ事項の内訳としては、最多は一般の方からのドーピングに関する問合せだが、占める割合は減少している。

②医薬品情報提供事業

1) DI 速報（FAX 等）の発行

厚生労働省医薬品・医療機器等安全性情報の概要 No. 418～427
新薬情報 No. 154～160

10 回
7 回

2) 広域病院採用医薬品のお知らせの発行

都内広域病院から連絡があった採用医薬品、採用中止医薬品等の情報を地区薬剤師会宛にメールにて周知を行った。

(2) インターネットを利用した各種薬事情報提供の推進

東京都薬剤師会ホームページ「医薬品等情報ページ」では、独自に作成した「新薬情報」、「添付文書改訂のお知らせ」を随時掲載するとともに、「医薬品・医療機器等安全性情報」の最新号にリンクを貼り、会員への周知に努めた。また、冊子「DI レター」「医薬品情報」については、令和7年10月から電子版に完全移行した。ウェブで閲覧可能となったことを、地区薬剤師会の他、東京都医師会及び東京都歯科医師会に周知した。

(3) 都民のための「おくすり相談窓口」業務の充実

道府県薬剤師会が作成したQ&A集等参考書籍、データを収集した。

(4) 都民のための「健康食品に関する安全性情報」提供のための情報収集と会員に対する健康食品の知識向上

東京都及び東京都医師会と協力し、健康食品によると疑われる健康被害情報の収集に努め、東京都へ12件の被害情報を報告した。

会員から広く被害事例を収集するため、「健康食品情報共有シート」を7月に「都薬雑誌」に同封した。また、地区薬剤師会の協力を得て、10月に開催した「薬と健康の週間」に開設された街頭相談所を利用して、都民に対し情報提供を行った。なお、本事業の周知・協力依頼を目的とした、都民向けチラシ「健康食品・サプリメントの摂取によってこんな悩み抱えていませんか?」、「健康食品・サプリメント情報シール」を作成して、「薬と健康の週間」に開設された街頭相談所で配布した。

また、東京都より発出された健康食品との関連が疑われる健康被害事例の収集への協力依頼文書（前期分）を薬学講習会で受講者に配布したほか、後期分の協力依頼文書、健康食品との関連が疑われる健康被害事例（平成18年7月～令和7年11月）をまとめた冊子「健康食品に関する安全性情報共有事業」、チラシ「サプリ・健康食品の摂取で体に違和感がでていませんか?」を地区薬剤師会経由で会員薬局に配布した。

【健康食品による健康被害に関する研修会】

今般、サプリメント摂取による健康被害が複数報道され、社会的関心の高まりを受け、薬局における相談体制の強化と情報提供の重要性が改めて認識されたことから、令和6年度に標記研修会が東京都の委託事業として企画・実施され、令和7年度も引き続き開催した。

開催日時：令和7年10月4日（土）18:00～19:55

開催方法：Zoomを利用したライブ配信

参加者：114名

内 容：

1. 開会・主催者挨拶

東京都健康安全研究センター 企画調整部 食品医薬品情報担当課長 大木 理恵子
東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. <講 義>

1) 最近の健康被害事例とオンライン報告の方法

2) やめられない健康食品 ―やめる行動を阻む心理の壁―

福島大学 食農学類 准教授 種村 菜奈枝

3. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

(5) 関係諸団体との連携、情報収集

日本薬剤師会と連携し、医薬品やその副作用等に関する情報の収集に努めた。また、東京医薬品工業協会主催の研修会等へ参加し、医薬品情報収集への協力を求めた。

5. 衛生試験所で行う試験検査対策

(1) 随意試験：会員薬局の医薬品における調剤及び販売業務向上に資する医薬品試験及び情報提供

医薬品は、必要に応じて試験検査を実施し、その基準に適合しないもの、異物が混入し、又は付着しているものは販売・授与のみならず輸入や貯蔵・陳列が禁止されている。それを取扱う薬局の開設者及び管理者は、必要に応じて医薬品の試験検査を実施することが、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」（薬機法）及びその施行規則で義務付けられている。

これに該当する医薬品が今年度は、会員薬局より2検体の依頼があり、いずれも処方箋医薬品であった。内訳は、1件目が患者名の印字ミスがある薬剤について、処方内容と同一の医薬品であるかを確認してほしいという相談であった。この件については、PDA 検出器を用いた高速液体クロマトグラフ法（HPLC）により処方薬剤の同定を行い、ピークのスペクトルが一致したことを報告した。

2件目は、調剤済み軟膏剤におけるステロイド成分の有無についての依頼であり、HPLC による分析の結果、ステロイド成分は検出されなかった（検出限界未満）ことを報告した。

(2) 計画的試験：試験所契約の薬局が製造・販売する薬局製剤の承認規格試験

薬局製剤として任意に提出された46処方80検体を試験した結果、内服薬では含量不足2検体、含量不足で毛髪様の異物を認めた1検体及び規格成分を認めない1検体、外用薬では含量過多2検体の合計6検体が承認規格基準に外れたものであった。試験及び結果の詳細については、「令和7年度医薬品計画的試験結果の集計報告」にまとめ報告した。なお、薬機法に不適合であることから、製造販売した薬局には速やかに結果を報告するとともに、その処方・規格の確認及び製造記録の再確認を依頼した。これらの不適合品の販売は中止していただいている。

令和7年度薬局製剤（46 処方）の承認適否試験結果

	処方数	検体数	適合	不適合
1) 漢方製剤（切断生薬）	19	26	26	0
2) 生薬製剤（生薬末）	5	7	7	0
3) 化学薬品を主とする内服薬（定量規格有）	6	17	14	3
4) 化学薬品を主とする内服薬（定量規格無）	7	15	14	1
5) 外用薬（定量規格有）	7	10	8	2
6) 外用薬（定量規格無）	2	5	5	0
合計	46	80	74	6

（3）在宅医療での医薬品の品質確保

日頃の在宅医療において汎用される薬剤のうち、一包化による品質劣化に疑義があると思われる 33 種類の薬剤の組み合わせからなる 7 処方の品質の確認について、会員の所属する薬局から依頼された。保存条件は、患者宅に近い状態の A「試験室内でお薬カレンダーに分包品を入れた状態（データロガーで温度・湿度、照度計で 1x 測定）」及び B「暗所 30±2℃/65±5% RH」で、1 ヶ月間保存したものを、PTP 包装から取り出した直後の薬剤と比較した。その結果は、条件 A または条件 B のいずれかにおいて性状変化が認められ、品質劣化を生じた薬剤は 33 薬剤中 9 薬剤であり、また、成分含量が 5%以上変動した薬剤については、全体として少数にとどまった。

（4）日本薬剤師会が実施する全国統一試験（医薬品試験に係る精度管理試験）への協力・参画

日本薬剤師会が実施する全国統一試験（医薬品試験に係る精度管理試験）を受託し、本試験所の内部精度管理試験としても活用した。今年度はベタメタゾン錠の高速液体クロマトグラフ法（HPLC）を用いた定量を行い日本薬剤師会に結果を報告した。

また、外部精度管理試験として、厚生労働省で実施する「登録試験検査機関間比較による技能試験」に参加し、エナラプリルマレイン酸塩錠の HPLC を用いた定量及び純度試験を行い、結果を厚生労働省（国立医薬品食品衛生研究所薬品部）に報告した。

内部精度管理試験として、HPLC を用いたカフェインの定量を行った。その結果は概ね良好な結果であり、記録簿に記載し保存した。

6. 「図書企画・編集・出版」事業

（1）会員に対する情報提供メディアとしての『都薬雑誌』の企画・編集

会員にとって身近であり、すぐに活用できる情報誌となることに留意しながら企画・編集を行い、月刊誌「都薬雑誌」を 12 回発行した。「都薬雑誌」は都薬の機関紙として前身である「東京都薬剤師会誌」が 1889 年に誕生して以来、紙の雑誌として会員にご愛読いただいたが、今年度 7 月より電子書籍へと生まれ変わった。

電子書籍化に伴い、紙面への動画やハイパーリンクの埋め込みが可能となったことから、電子書籍だからこそできる工夫を盛り込んだ企画を立案した。

新シリーズ「読者の窓」では読者からの投稿に基づいた記事の内容をコンパクトな動画にまとめて、動画を見ながら記事を楽しめるようにした。新シリーズ「ザッツ談」では生成AIを活用した動画を掲載し、にぎやかな座談会の様子が伝わる工夫をした。

紙の雑誌から引き続き、特徴のある企画も行ったので以下に挙げる。

「TOKYO2025 デフリンピック」が開催されたことを受け、デフテニス日本代表専属スポーツファーマシストの活動と国際大会での通訳活動を紹介するシリーズ「聴覚障害を乗り越えたアスリートを支える薬剤師の役割」を掲載した。「大麻を取り巻く法整備について」では「大麻取締法」の改正などを中心にわかりやすく解説いただいた。

薬剤師の基礎知識をアップデートするための情報提供を目的に「薬科大学での『多職種連携教育』について」「食事のつかえ感から診断を疑う食道アカラシアの病態と治療法」「はじめての中医学教室」などを企画した。

地域医療に着目した企画としては、「高齢者のトレーニング」「点眼薬雑感」などを掲載した。

また、本会が令和7年度に実施した研修会を紹介した「在宅訪問ステップアップ研修会参加記」「覗いてみませんか？隣の地区研修会」を紙面で報告することで、本会の活動状況を広く周知した。

その他の企画として新シリーズ「藤井もとゆきの国政メモワール」、好評の既シリーズ「海外での大学院生活と現地での暮らし」「音楽家と病気」「我が大学が誇る施設」「記者ぼっぽ」など、多岐にわたる話題を取り上げ、本会会員に提供した。

また、都薬会員用ホームページに電子書籍「都薬雑誌」第47巻（2025年発行）を掲載し、47年間分のバックナンバーを会員が閲覧し活用することを可能とした。

（2）『医薬品情報』・『DI レター』の発行

東京都からの委託を受け、令和7年7月から令和8年3月にかけて、『医薬品情報』No.1～5 及び『DI レター』No.1～4 をそれぞれ隔月で発行した。『医薬品情報』では主に医薬品の使用上の注意改訂や副作用情報を解説したほか、今年度は、「がん化学療法における制吐療法～内服抗がん薬を中心に～」、「地域で取り組む心不全治療」、「検査値について 総論（今後 HPKI カードを用いたデータ活用のために）」、「検査値について 慢性腎不全（CKD）」、「検査値について 糖尿病に必要な検査値」など、薬剤師の実務に資するテーマを特集として掲載した。これらの記事は、山本 扇里（市立青梅総合医療センター）、磯貝 一成（日野市立病院薬剤部）、近藤 幸男（東京都薬剤師会学術委員会 委員長）、藪下 健太郎（同 副委員長）ら、各分野の専門家に執筆を依頼した。

また、『DI レター』では、話題の新薬や注意喚起が求められる医薬品に関する適正使用情報を掲載した。

（3）調剤報酬関連の冊子の企画、編纂

（3－1（3）「「国民健康保険調剤必携」等保険調剤関連資料の作成・検討」の項を参照）

7. 医薬品・情報管理センター事業への対策

（1）医薬品・情報管理センターを拠点とする薬事情報提供活動の推進

「薬と健康の週間」用資料、医薬品情報、DI レター、薬事関係資料、偽造処方箋情報及び医療

保険情報などを提供し、管理センターの情報中継機能を支援した。

(2) 薬局間の備蓄医薬品検索システムの検討

添付文書情報の表示機能や後発医薬品比較サイトとの連携等の機能を追加し、利用者の利便性の向上を図った。また、医薬品マスター等の更新を適宜行い、システムの安定運用に向けた対応を継続的に実施した。

(3) 後発医薬品の備蓄に関する情報提供

令和7年10月調剤分を対象にした第17回地域医薬品使用実態調査で得られた調査結果の一覧表を掲載するとともに、全医薬品の調剤回数を後発医薬品比較サイトのデータに反映させ、最新情報の提供に努めた。

①後発医薬品の調剤回数は全医薬品対比 60.8%、調剤数量は同 54.5%、薬剤料は同 20.2%であった。

②汎用医薬品における後発医薬品変更率は、アロプリノール錠 99.9%、レバミピド錠 73.2%、アムロジピン錠 91.9%、ロキソプロフェン Na 錠 87.7%、ファモチジン錠 89.6%、カルボシステイン錠 76.5%、テブレノンカプセル 73.2%、ランソプラゾール錠・カプセル 94.0%、トラネキサム酸錠・カプセル 86.4%、エチゾラム錠 72.1%、カルボシステインシロップ 85.1%、カルボシステインドライシロップ 93.1%、ツロブテロールテープ 83.4%であった。

(4) 医薬品・情報管理センターを核とした医薬品（一般用含む）分譲業務の検討

管理センターの医薬品販売の利用状況を把握した。

(5) 医薬品・情報管理センター運営に関する支援

平成25年度に医薬品・情報管理センター設置運営基準を示し、「医薬品・情報管理センターの設置及び運営に関する覚書」を各センターと取り交わした。現在は、地区薬剤師会が運営する医薬品・情報管理センター運営要綱の提出を受け、当会にて確認及び保管等の支援を行っている。

8. 「薬事衛生・公衆衛生」事業

(1) 都民に対する一般用医薬品等の適正使用の啓発

(8. (7) 「『薬と健康の週間』事業の実施」の項を参照

(2) 『薬事衛生自治指導教本』の作成と講習実施

本年度も東京都の委託を受けて、「薬事関係法規教本 2025 年追補版」、自主点検表を作成し、地区薬剤師会を通じて各会員薬局・店舗に配布した。また、薬事衛生自治指導員に対して下記のとおり講習会を実施し、薬事関係法規教本や自主点検表の内容説明のほか、巡回指導時の留意事項や報告書の記載方法等について説明を行った。

【薬事衛生自治指導員全体講習会】

開催日時：令和7年9月24日（水）～30日（火）

開催方法：YouTube を利用した期間限定オンデマンド配信

受講者：351 名／薬事衛生自治指導員 436 名中

その他、上記以外の地区代表者の聴講：7名

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 最近の薬務行政について 東京都保健医療局健康安全部 薬事監視担当課長 渡辺 大介
3. 薬事関係法規教本 2025 年追補版について 東京都薬剤師会 薬事委員会 副委員長 佐藤 むつみ
4. 自治指導事業と巡回指導について 東京都薬剤師会 理事 町田 奈緒子

昨年の「2025 年追補版」発行以降の改正点についてまとめ、関係法令の周知を行った。自主点検内容については、昨年同様、薬と健康の週間の時期に、実際に巡回して相互チェックを実施し、不備な点があればその場で改善いただくよう解説した。

（３）薬機法の定着のための研修会等の実施

（８．（２）『薬事衛生自治指導教本』の作成と講習実施」の項を参照）

（４）薬物乱用防止啓発事業への協力

都内の青少年を対象に薬物に対する正しい知識及び乱用の恐ろしさや弊害を啓発するため、東京都の委託を受け、各地区において青少年薬物乱用防止講習会を実施した。62 名の薬物専門講師等を含む本会会員により小中学校、高等学校、職業能力開発施設等において 162 回の講習会が実施され、延べ 21,884 人が受講した。

今年度実施報告数は、昨年度実施報告数とほぼ同数となった。一方、本会に実施報告があった会員学校薬剤師による担当校における今年度の薬物乱用防止講習会の報告数は昨年度 49 件から 80 件へと増加した。これは、近年の医薬品の過剰摂取（オーバードーズ）等を含む薬物乱用防止啓発活動において、学校薬剤師に対する期待が高まっているためと考えられる。

なお、本会に実施報告があった会員学校薬剤師による担当校における今年度の薬物乱用防止講習会の報告数を合わせると 242 回の講習会が実施されており、延べ 28,680 人が受講したことになる。

〔令和 7 年度 薬物乱用防止講習会 実施報告数〕

	担当校以外で本会会員が実施した薬乱防止講習会	担当校で会員学校薬剤師が実施した薬乱防止講習会*	報告数合計
講習会実施回数(回)	162	80	242
受講者人数(人)	21,884	6,796	28,680

*64 名の薬物専門講師等を含む本会会員薬剤師のうち 16 名と、学校薬剤師 17 名から担当校で実施した薬物乱用防止講習会について報告いただいた

東京都が実施している「薬物専門講師証明制度」の周知に努め、交付申請に係る事務を行い、交付が円滑に行われるよう協力した。今年度、申請のあった会員のうち証明の要件を満たす 29 名に薬物専門講師証明書が交付された。これにより、東京都が実施している薬物専門講師証明制度による本会会員の有効期限内証明書交付者数は令和 7 年 10 月 1 日現在、92 名となった。

また、東京都の薬物乱用防止対策への協力依頼を受け、「東京都不正大麻・けし撲滅運動啓発用ポスター」「東京都『ダメ。ゼッタイ。』普及運動啓発用ポスター・リーフレット」「麻薬・

覚醒剤・大麻乱用防止運動啓発用ポスター・パンフレット」「薬物乱用防止啓発用リーフレット『健康に生きる 恐ろしい薬物乱用』」等を各地区及び職域薬剤師会に配布した。

本会公衆衛生委員会作製の、小学校高学年を対象とする「薬物乱用ダメ！ゼッタイ！」「くすりの適正使用 クスリはリスクー過剰摂取編ー」フラッパー型啓発資材、並びに中学生及び高校生を対象としたフラッパー型啓発資材「薬物乱用ダメ！ゼッタイ！大麻編」は、今年度も地区薬剤師会をはじめ、会員薬剤師等に頒布し、薬物乱用防止講習会等で広く活用された。

（５）禁煙及び受動喫煙対策の周知徹底と啓発

本会では、2011 年 10 月より薬剤師の生涯教育の一環として、禁煙支援薬剤師認定制度をスタートさせ、禁煙指導の意義を理解し、禁煙支援・指導方法の正しい知識を持ち、喫煙者へ禁煙相談、禁煙プログラムを適切に提供できる認定禁煙支援薬剤師を養成し、認定禁煙支援薬剤師等を通して禁煙活動に取り組んでいる（2—1（2）「禁煙支援薬剤師認定制度の推進」の項を参照）。

また喫煙は本人だけでなく、周囲にいる人にとってもさまざまな疾病の遠因となっていることを都民に正しく伝達することで、都民に対する禁煙及び受動喫煙対策に係る普及啓発活動に協力した。

本会公衆衛生委員会作製の、小学校高学年を対象とした受動喫煙に関するフラッパー型啓発資材「受動喫煙に NO!!」は、今年度も地区薬剤師会をはじめ、会員薬剤師等に頒布し、会員学校薬剤師による薬物乱用防止講習会やくすり教育等で広く活用された。

（６）健康日本 21（第三次）に基づいた、健康増進活動への協力と推進

健康増進法に基づき策定された、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針の具体的な計画である健康日本 21（第三次）に基づき、厚生労働省が実施する国民一人ひとりが食生活改善の重要性を認識し、理解を深め、日常生活での実践を促進すること等を目的とした食生活改善普及運動の推進に取り組んでいくよう地区及び職域薬剤師会への周知に努めた。さらに食生活改善普及運動と同時期に実施された健康増進普及月間についても地区及び職域薬剤師会へ周知した。

また、本会公衆衛生委員会で作成した「公衆衛生に関する Q&A～健康サポート編～」では健康日本 21（第二次）の中間報告で目標を達成できていない項目について、薬局薬剤師が関わることのできる生活習慣の改善や、重症化予防に貢献できる内容を取りあげ、今年度も地区薬剤師会をはじめ、会員薬剤師等に頒布し、広く活用された。

（７）『薬と健康の週間』事業の実施

「薬と健康の週間」（10 月 17 日～23 日）において、日本薬剤師会、厚生労働省、東京都及び関係機関と連携し、都内 47 地区で「薬の街頭相談所」を開設した。街頭相談所と薬局等により下記のポスターをはじめ各種資料を配布し、都民へ薬の正しい使い方等の啓発並びに情報発信を行った。

【ポスター、資料等の配布】

「薬と健康の週間」（ポスター）	—1 薬局・店舗 1 枚
「薬の無料相談」（ポスター）	—1 会場 2 枚
「薬との上手なつきあい方」	—1 会場 100 部（1 薬局・店舗 5 部）
「知っておきたい薬の知識」	—1 会場 200 部（1 薬局・店舗 3 部）
「医療情報ネット（ナビ）」	—1 会場 300 枚（1 薬局・店舗 3 枚）
「フラッパー型資材『過剰摂取編』」	—1 会場 200 枚

「薬の相談記録」(個票)	—1 会場 100 枚
「健康食品 情報共有シート」	—1 会場 50 枚
「健康食品・サプリメントの摂取によって『こんな悩み抱えていませんか?』」	—1 会場 100 枚
もうお持ちですか? 「かかりつけ薬剤師・薬局」	利用していますか? 「健康サポート薬局」
ご存じですか? 「地域連携薬局」	—1 会場 200 枚 (1 薬局・店舗 3 枚)
「医薬品副作用救済制度ポスター」	—1 薬局・店舗 1 枚
「医薬品副作用救済制度」	—1 薬局・店舗 10 枚
「患者副作用報告」(ポスター)	—1 薬局・店舗 1 枚
「健康食品クリアファイル」	—1 会場 40 枚
「健康食品・サプリメント情報シール」	—1 会場 200 枚
「スポーツをがんばっている人 ご存じですか?意図しないドーピング」	—1 会場 100 部
「あなたのくすりいくつ飲んでいますか?」(ポスター)	—1 薬局・店舗 1 枚
「あなたのくすりいくつ飲んでいますか?」(リーフレット)	—1 会場 100 枚
「あなたのくすりいくつ飲んでいますか?」(カードサイズ)	—1 会場 100 枚

【薬の街頭相談所の開設】

47 地区において街頭相談所等を開設し、くすりに関する無料相談等を実施し、都民の薬に対する関心に応え、薬の適正使用について広く普及啓発を行った。また、介護相談や薬物乱用防止、かかりつけ薬剤師・薬局、健康サポート薬局の啓発活動等も実施した。なお、くすり相談については東京都病院薬剤師会の協力を得て実施した。

街頭相談所開設場所 カッコ内は地区薬剤師会名)

千代田区、日本橋、京橋、港区、新宿区、文京区、下谷、浅草、墨田区、江東区、品川区、目黒区、大田区、世田谷区(世田谷・玉川砦)、渋谷区、中野区、杉並区、豊島区、荒川区、板橋区、練馬区、足立区、葛飾区、江戸川区、西多摩、八王子市、日野市(南多摩)、多摩市(南多摩)、稲城市(南多摩)、町田市、府中市、調布市、狛江市、小金井市、国分寺市、立川市(北多摩)、昭島市(北多摩)、国立市(北多摩)、東大和市(北多摩)、武蔵村山市(北多摩)、武蔵野市、三鷹市、西東京市(西武)、小平市(西武)、東久留米市(西武)、東村山市(西武)、清瀬市(西武)

(8) 自殺防止対策普及啓発活動への協力

「自殺対策基本法」及び「自殺総合対策大綱」に基づき、「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現に向けた、厚生労働省からの啓発活動及び支援策等の推進協力依頼を受け、地区薬剤師会を通じて会員薬局に広報用ポスターの掲示依頼及び広報動画の活用依頼(自殺予防週間並びに自殺対策強化月間)をするとともに、会員薬剤師が自殺対策のゲートキーパーとして地域関係機関と連携の上、各種相談支援等に取り組んでいくよう周知した。

また、東京都からの協力依頼を受け、近年の自殺者数の増加対策として、自殺者数及び自殺死亡率の減少を目的とした東京都実施の「東京都自殺未遂者支援研修」の周知に努めた。

(9) スポーツファーマシスト、薬剤師のアンチ・ドーピング対応の推進と、各種スポーツ団体とのアンチ・ドーピング活動の協力推進

東京都より「医薬品の適正使用推進事業」として助成を受け、「意図しないドーピング(うっかりドーピング)」を防止するために「アンチ・ドーピング講習会」の開催、「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック 2025 年版」の配付を行った。

「アンチ・ドーピング活動地区指導者講習会」は、各地区薬剤師会の代表者と活動状況を共有することを目的に開催し、地域における取組みの活性化を図った。

「公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会」は、公認スポーツファーマシストへの活動支援として現地受講と配信受講のハイブリッド形式にて開催した。本年度は対象者をスポーツファーマシストに限らず、これからスポーツファーマシストを目指す都内在住・在勤の薬剤師にも拡大し、全国から 178 名の参加を得た。

そのほか、一般市民向け啓発資料として作成したパンフレットを「薬と健康の週間」等の機会を通じて配布したほか、本会ホームページ内「うっかりドーピングを防止しよう」のページ内容を最新情報に基づき更新し、広く周知を図った。昨年度から連携している日本パラスポーツ協会（JPSA）との協力体制は、各競技団体より、JPSA を通じて都薬のスポーツファーマシスト派遣について具体的な打診があり、本格的に始動することとなった。

新たな取り組みとして、地域活動、学校教育、イベント等でアンチ・ドーピング関連の啓発・教育を目的として各地区に貸し出しができるよう、アウトリーチ資料を作成した。

【令和7年度 アンチ・ドーピング活動地区指導者講習会】

開催日時：令和7年11月29日（土）17:30～19:40

開催場所：安田コミュニティープラザ A+B 会議室

受講者：各地区薬剤師会代表者 38 名、聴講希望者 2 名

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
2. 東京都薬剤師会が作成したアンチ・ドーピングアウトリーチ資料の貸出方法について
東京都薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会 委員 宮田 博美
3. 板橋区薬剤師会におけるアンチ・ドーピング活動（会長編）
～会長としての活動を中心に～
一般社団法人板橋区薬剤師会 会長 保坂 洋二
4. スポーツファーマシストからみたデフスポーツ
昭和医科大学病院 薬剤部、東京 2025 デフリンピック自転車競技日本代表選手
スポーツファーマシスト 早瀬 久美
5. パラスポーツにおけるスポーツファーマシストとしての活動紹介
東京都薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会 副委員長 菊地 勇人
6. 本日のまとめ 東京都薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会 委員長 高松 謙悟
7. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 高松 登

【公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会】

開催日時：令和8年2月15日（日）13:00～16:00

開催場所：集合研修及び配信視聴

・会場 帝京大学 板橋キャンパス 大学棟本館3階302講義室

・配信 Zoom ウェビナー

受講者：178 名（会場 56 名＋配信 122 名）

内 容：

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. アンチ・ドーピングの最新情報

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 専務理事 浅川 伸

3. 2026 禁止表国際基準と治療使用特例の注意点

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 医療・科学部 部長 鈴木 智弓

4. 滋賀国スポ・障スポにおけるスポーツファーマシストのアンチ・ドーピング活動

一般社団法人滋賀県薬剤師会 薬事情報センター長 岸本 仁文

5. 1252 プロジェクトを通じた女性アスリートの支援の現状

～アスリートの経験を生かして～

一般社団法人スポーツを止めるな 代表理事 伊藤 華英

6. パネルディスカッション／質疑応答

公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構 医療・科学部 部長 鈴木 智弓

一般社団法人滋賀県薬剤師会 薬事情報センター長 岸本 仁文

一般社団法人スポーツを止めるな 代表理事 伊藤 華英

東京都薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会

副委員長 篠木 真帆・同 委員 松島 美菜

7. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

(10) 感染症及びアレルギー疾患の医療体制対策の推進と協力

令和6年4月に施行された改正感染症法に基づき、感染症発生時における薬剤師の役割と薬局の機能について、東京都及び関係団体との連携のもと、その体制整備と周知に努めた。

また、前年度に引き続き、感染症発生時における円滑な医療提供体制の構築を目的とした、東京都と薬局等との「医療措置協定」に係る情報提供を行い、各地区薬剤師会を通じて当該協定の意義や必要性を会員へ周知し、締結促進に向けた取り組みを継続して実施した。

アレルギー疾患対策においては、東京都アレルギー疾患対策検討委員会に当会役員が委員として参画し、行政の施策立案・検討を行った。

9. 組織強化対策

(1) 会費のあり方を含めた会員増加策の検討

会員数が増加傾向に転じない状況を踏まえ、B会員の増強策として「都薬お試し入会キャンペーン」を実施した。本キャンペーンは、地区薬剤師会の正会員が所属する薬局に勤務する20代薬剤師を対象に、最大2年間（令和9年3月31日まで）都薬会費を免除し、本会の事業や活動を実際に体験してもらうことで、期間終了後の正会員への円滑な移行を促すことを目的としている。第1弾の受付期間（4月1日から9月30日まで）には、21名の応募があった。

また、お試し入会者を対象とした交流会を令和7年11月15日（土）に開催した。

(2) 公益法人制度への対応

平成25年4月1日に公益社団法人として登記して以後、新法人法に基づく定款並びに諸規程の定めに従って会務を遂行している。

定款及び法人法の定めにより、令和7年6月の通常総会終了を以て任期満了となる役員について、役員選考規程及び会長立候補・副会長候補者の選出に関する規則に基づき、役員選挙管理委員会が統括して、次期会長候補者1名、次期副会長候補者4名を含む理事25名と監事2

名を、第 107 回通常総会（令和 7 年 6 月 21 日開催）において選出、同日開催した第 1 回理事会において、当選した理事の中から、会長 1 名、副会長 4 名、常務理事 10 名を選任した。

また、公益法人制度改正への対応に伴い、令和 7 年 9 月 24 日書面評決により開催した第 108 回臨時総会において、外部理事 1 名、外部監事 1 名を選任した。

2 年ごと 7 月末日までに実施する旨の定款及び法人法の定めがある代議員・予備代議員について、代議員選挙管理委員会が統括して、令和 7 年 6 月に選挙区ごとに選挙が実施され、7 月 17 日付けにて、代議員 135 名、予備代議員 123 名を選出した。

（３）会員管理システムの維持と拡充

会員管理システムの安定的な運用を目的に、本年度も引き続き、各種 OA 機器の整備・拡充を行った。

（４）都薬研修プラットフォームの構築及び活用

これまで生涯研修制度の利便性向上に向け同制度の全面的な電子化について検討を重ねた結果、株式会社医療教育ラボ社が開発した、生涯学習マネジメントシステム「Leanect（ラネクト）」を基盤とした「とやくプラットフォーム（以下、とーぷら）」を導入することとし、令和 7 年 10 月には、e-ラーニングシステム「t-MYLS」を「とーぷら」に先行して移管し、運用を開始した。また、令和 8 年 2 月より「とーぷら」の研修機能を公開し、受講者に「とーぷら」上で電子単位を発行する運用も開始した。なお、「とーぷら」の運用開始に際しては、年 2 回開催する地区薬剤師会研修会の都薬アワーにおいて、周知を行い当該システムの活用を促した。

（５）インターネット等を活用した本会と地区・職域薬剤師会間の連携強化

新型コロナウイルス感染症対策を含め、会議のあり方について、Web 等を用いて地区及び職域薬剤師会等の会議が開催できるよう対応を行った。また、地区薬剤師会への電子メールや Google フォームを用いて会議やアンケート情報収集にも活用している。さらに、ホームページについても、毎月更新を行い、理事会、地区及び職域薬剤師会会長会で報告し、最新の情報発信に努めている。

各薬剤師会における課題や新たな取組等について意見交換を行うことにより、相互理解を一層深めるとともに組織の向上に寄与することを目的に、情報交換会を企画した。本会と地区及び職域薬剤師会会長が一堂に会し、令和 7 年 12 月 6 日に情報交換会を図った。

（６）職種部会（製薬部会・卸勤務薬剤師部会・行政薬剤師部会）活動への支援

各事業などにおいて、連携を図り支援を行った。

（７）学校薬剤師活動への支援と日本薬剤師会学校薬剤師東京ブロック連絡会議の実施

学校薬剤師活動の支援を目的とする、東京都内全地区の学校薬剤師担当役員並びに指導的立場にある会員学校薬剤師を対象とした「東京都学校薬剤師担当者連絡会議」を下記のとおり開催した。本会議は日本薬剤師会学校薬剤師部会学校薬剤師東京ブロック会議が関東ブロックに併合されることを受け、地区薬剤師会担当者を招集したブロック会議の開催がなくなるため、本会として各地区との情報共有の場が必要であると考え開催した。

本会議では、日本薬剤師会からの情報伝達を目的に、日本薬剤師会学校薬剤師部会幹事からの説明に加え、昨今社会的問題となっている若年層に広がる一般用医薬品等の過剰摂取（オーバードーズ）による依存等に着目し、多様な依存の現状や、それに対する取組について専門家による研修を行った。加えて、都内全ての学校薬剤師が格差のない統一した活動を実施することを目的に、本会が調査を実施している「学校環境衛生基準における学校薬剤師職務等に関する

る実態調査」において、令和6年度に実施した『「教室等の環境に係る学校環境衛生基準」に規定されている各検査項目やプール水検査、給食室検査の検査実施状況及び、学校保健計画の立案にかかわっているか、理科準備室や保健室の薬品の保管・管理チェックの実施状況、並びに災害に対する学校薬剤師としての意識調査」等の調査結果について報告した。また、本会学校保健委員会にて作成した、小学校高学年児童を対象とした薬物乱用防止講習会用スライド資料の活用と目的を解説し、学校薬剤師が担当の小学校において薬物乱用防止教室を実施するための一助となるよう努めた。警視庁との共同事業「～正しい知識で自分を守る～TOKYO 薬物乱用防止教室」の実施状況についても報告を行った。（9.（8）覚書に基づく警視庁との薬物乱用防止教室の共同実施参照）

なお、今年度調査では、昨年度調査に加え、地区へのアンケート結果にて「都立学校で学校環境衛生検査に使用する検査器具が備えられていないため、実施すべき検査ができない状況がある」との回答を受け、都立高等学校を対象に検査器具に関する質問項目を追加し、各地区薬剤師会に調査を依頼した。

【東京都学校薬剤師担当者連絡会議】

開催日時：令和7年12月13日（土）17:00～19:50

開催場所：エッサム神田ホール2号館401大会議室

受講者：56名

内容：

1. 開会挨拶

東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

2. 「学校薬剤師としてのオーバードーズ防止教育」～子供たちを取り巻く社会全体を通じた取り組み～

日本薬剤師会 学校薬剤師部会 幹事 西前 多香哉

3. 市販薬オーバードーズの実態と課題

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター

精神保健研究所 薬物依存研究部 部長 松本 俊彦

4. 令和6年度 学校環境衛生基準における学校薬剤師職務等に関する実態調査」教室等の環境に係る学校環境衛生基準の検査実施状況、学校保健計画の立案、理科準備室等の薬品の保管・管理チェック並びに災害に対する意識調査に関わる結果報告

東京都薬剤師会 学校保健委員会 委員 篠崎 敦子

5. 東京都薬剤師会学校保健委員会作成 薬物乱用防止講習会用スライド資料の活用と目的

東京都薬剤師会 常務理事 藤尾 絵美

6. 警視庁との共同事業「～正しい知識で自分を守る～TOKYO 薬物乱用防止教室」の実施について

東京都薬剤師会 理事 濱野 明子

7. 質疑応答

8. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 高松 登

（8）覚書に基づく警視庁との薬物乱用防止教室の共同実施

近年、若年層に広がる一般用医薬品等の過剰摂取（オーバードーズ：OD）が大きな社会問題となっていることに対し、警視庁、東京都薬剤師会、日本薬剤師会、くすりの適正使用協議会が連携して子どもたちへの薬物乱用防止活動を効果的に推進することを目的に締結した児童・生徒の薬物乱用防止に関する覚書に基づき、警視庁と連携して「～正しい知識で自分を守る～TOKYO 薬物乱用防止教室」を31回実施した。また、警視庁からの依頼に基づき、少年警察

ボランティア勉強会への講師派遣を4回及び、親と子の警察展への薬剤師派遣協力（練馬区薬剤師会）を行った。

児童・生徒の薬物乱用防止に関する覚書に基づく各団体の対応状況の確認並びに、今後の活動方針についての四者会議を1回開催した。

（9）講習会・研修会実施における担当部署間の連携強化

令和7年度は、活動テーマを「2025年のその先へ～すべてのライフステージで必要とされる薬剤師を目指して～」とした。このテーマに沿って、実施に関わる各部署の役割を明確にし、企画立案、会場・講師手配、参加者募集等を行い、講習会・研修会を実施した。各部署の担当者及び役員が定期的に、講習会や研修会の進行状況や課題、改善点などを共有する等連携強化を図った。

また、本会では、定款第55条の定めにより事業の推進を目的として委員会を設置し、会員、学術、薬局業務、薬・薬連携、薬事、公衆衛生、学校保健、医療保険、編集、実務実習、生涯学習、災害対策、アンチ・ドーピングの各常置委員会（定款施行細則第13条）並びに学術倫理特別委員会（定款施行細則第14条）等の委員を会員に委嘱している。

（10）研修プラットフォームを通じた他道府県並びに地区薬剤師会との連携強化

生涯学習マネジメントシステム「とーぷら」の公開を機に、当該システムを活用した研修会の開催について地区薬剤師会にも呼びかけを行い、全体説明会に加えて個別説明会も複数回実施した。本会の研修会のみならず、地区薬剤師会での研修会においても「とーぷら」を活用することで、学修者が生涯研鑽へアクセスしやすい環境整備を進めた。また、「とーぷら」上で自身の学修領域を把握しやすくするため、ダッシュボード機能の構築を進めている。これにより、研修会開催時には本会と地区薬剤師会が連携し、対象領域に即した形で研修を提供できる体制づくりを進めている。

さらに、「関東・東京ブロック生涯研修認定制度協議会」に所属する埼玉県・千葉県・神奈川県と、生涯研修認定制度の利便性向上に向けた情報共有を継続的にを行い、広域的な連携強化にも取り組んだ。

10. 災害時における医療救護対策

（1）災害時等の医療支援体制への協力

本会は、東京都における大規模災害発生時の医療機能確保に向けた取り組みとして、引き続き「地域災害医療連携会議」へ協力した。本会議は、都内13の二次保健医療圏を単位に設置されており、各地区薬剤師会と連携しながら、本会役員が該当地区の会議に出席し、災害時における医薬品供給体制や薬剤師の役割等について、関係機関との情報共有及び意見交換を行った。

また、令和7年4月より前年度に引き続き、本会役員2名が東京都の「災害薬事コーディネーター」に任命されている。さらに、令和8年2月より東京都が災害対策医薬品供給車両（モバイルファーマシー）（以下「MP」という。）を導入することに伴い、本会はMPの運用等に関する委託協定を締結した。

これを受け、本会では、発災時におけるMPの運用に加え、平時におけるMPを活用した訓練の実施、車両の維持管理、運用に必要な通信環境整備としてスターリンクの導入・管理など、運用体制の整備を進めていく。令和7年度は、東京都庁において、MPの運転及び搭載機器の操作を行うことができる人員の育成を目的とした訓練を実施した。

今後は、MP 派遣時に薬剤師が担う運転、設営、調剤準備、調剤、撤収といった一連の業務について操作習熟を図るため、東京都総合防災訓練や地域防災訓練等に参加し、MP を使用した実践的な訓練を実施する。これにより、大規模災害時における薬剤師の迅速かつ的確な支援体制の構築を目指し、行政及び関係団体とのさらなる連携強化を図っていく。

(2) 災害時医療救護に係る「災害時薬事活動リーダー」(薬事コーディネーター)の養成研修会の開催

東京都地域防災計画、災害時における薬剤師の役割、病院・薬局・医薬品卸売販売業者等との多職種の連携、災害医療の特殊性等を理解し、区市町村災害薬事コーディネーターとして地区における災害医療に対応できる薬剤師のリーダー的人材の育成を目的とした「災害時薬事活動リーダー研修」を2回実施した。当該研修では、東京都病院薬剤師会、東京医薬品卸業協会にも参加を要請するとともに、地区ごとにグループを編成し、より地区の実情を見据えた図上訓練を行った。

【第1回 災害時薬事活動リーダー研修】

開催日時：令和7年10月26日(日)9:00～17:00

開催場所：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター ソラシティホール

参加者：34名

参加地区：品川区、目黒区、大田区、世田谷、玉川砧、渋谷区

内 容：

- 挨拶 東京都薬剤師会 副会長 宮川 昌和
- 東京におけるこれからの災害医療 東京都保健医療局医療政策部 災害医療担当課長 上村 淳司
- 東京都における災害対策～災害時における医薬品等の供給体制～ 東京都保健医療局健康安全部 薬務課事業連携担当 加藤 啓文
- 災害時における薬剤師会の活動について 東京都薬剤師会 災害対策委員会委員長 三溝 学
- 自衛隊の医療救護活動について 防衛省陸上自衛隊東部方面総監部医務官室
- 図上訓練(DIG・災害想定俯瞰) 日本赤十字看護大学附属災害救護研究所 副所長 丸山 嘉一
- 図上訓練(被災地内の薬事関係者の連携) 東京都医師会 救急・災害委員会 副委員長 矢野 正雄
- 総括 日本赤十字看護大学附属災害救護研究所 副所長 丸山 嘉一
- 修了証授与・閉会 東京都薬剤師会 常務理事 田中 英朗

【第2回 災害時薬事活動リーダー研修】

開催日時：令和7年12月21日(日)9:00～17:00

開催場所：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター ソラシティホール

参加者：37名

参加地区：豊島区、北区、板橋区、練馬区、西武

内 容：

- 挨拶 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫
- 東京におけるこれからの災害医療

東京都保健医療局医療政策部 災害医療担当課長 上村 淳司
3. 東京都における災害対策～災害時における医薬品等の供給体制～

東京都保健医療局健康安全部 薬務課事業連携担当 加藤 啓文
4. 災害時における薬事活動について

東京都薬剤師会 災害対策委員会 委員長 三溝 学
5. 自衛隊の医療救護活動について

防衛省陸上自衛隊東部方面総監部医務官室
6. 図上訓練（災害時薬事活動を想像する：Drug Imagination Game (DIG)）

【オンライン登壇】日本赤十字看護大学附属災害救護研究所 副所長 丸山 嘉一
日本赤十字社医療センター薬剤部 医薬品情報・安全管理課 西村 康孝

7. 図上訓練（災害時の薬事関係者の動き） 東京都医師会 大桃 丈知

8. 総合演習（災害時薬事活動を俯瞰する）

9. 修了証授与・閉会 東京都薬剤師会 会長 高橋 正夫

（３）東京都地域防災計画（震災編）に係る「東京都災害薬事コーディネーター」他関係組織との連携整備

東京都総務局総合防災部では、震災による新たな被害想定に基づき、都民の命とくらしを守るため、地域防災計画（震災編）を策定している。これに関連して、災害時における医薬品の供給体制や薬剤師の役割に関する実務的な連携体制の整備が求められている。本会では、東京都災害薬事コーディネーターを中心に、災害発生時における薬剤師の役割と体制構築に関して、関係機関との連携を見据えた情報収集と連携体制の検討を継続した。

また、東京都医療救護活動体制分科会に本会の災害薬事コーディネーターが参画し、避難所等における要配慮者が服薬を継続できる体制の構築に向けて、災害時における薬剤情報閲覧の仕組づくりや地域災害薬事コーディネーター設置の必要性について意見を述べた。

今後も、本会は東京都との緊密な連携のもと、薬剤師が災害医療に的確に対応できる体制の構築に向けて、引き続き支援体制の強化と実効性のある取組みを進めていく。

（４）防災訓練への参加協力

東京都では、冬の夕方 18 時に多摩東部を震源域とするマグニチュード 7.3 の非常に強い直下地震が発生し、風速 8m/s の気象条件下における被害を想定し、令和 7 年 8 月 31 日（日）に「令和 7 年度東京都・羽村市・日の出町合同総合防災訓練」を実施した。

本訓練において、東京都保健医療局健康安全部では「医療救護活動訓練」を行った。

本会は災害対策基本法に基づく指定地方公共機関となっており、本部役員、西多摩地区より薬剤師班を 5 班編成し、本訓練に参加した。訓練会場の羽村市立羽村第一中学校において、災害薬事センター、医療救護活動拠点、調剤・服薬指導エリアを設置し、医薬品等供給訓練（医薬品等供給要請訓練・医薬品搬入訓練）、調剤・服薬指導訓練、OTC 医薬品供給訓練に参加した。

（５）大災害時における薬局 BCP（事業継続計画）の活用支援

当会ホームページ上に薬局 BCP（事業継続計画）の作成用ひな型を掲載し、災害発生時の薬剤師の活動や、限られた資源の中での業務継続、早期再開の基盤づくりを支援した。

（６）災害時等における関東圏及び東京都地区薬剤師会との連携体制の構築

災害時に会員の安否確認を迅速に行うため、平成 28 年度に契約した ALSOK 株式会社（旧社

名：総合警備保障株式会社）が提供する「ALSOK 安否確認サービス」を活用し、電子メールによる連絡体制の推進を図った。令和7年度においては、地区薬剤師会に対し、同システムの理解促進に努めるとともに、加入の推進を行った。

また、令和7年9月の記録的短時間大雨の発生時には、安否確認メールを配信して情報収集を行い、被害状況の把握を通じて災害時における備えの強化につなげた。

（7）東京都国民保護計画への体制整備

武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律（以下「国民保護法」という。）第36条第2項に基づき作成した当会の「国民保護業務計画」に定める役員・職員連絡網について、インターネット回線による電子メールを用い、ALSOK 株式会社（旧社名：総合警備保障株式会社）が提供する「安否確認サービス」を導入し、発信・連絡試験を実施した。

（8）改正感染症法（令和6年4月施行）の推進

令和6年4月に施行された改正感染症法に基づき、本会では、感染症発生時における薬剤師の役割と薬局の機能について、東京都および関係団体との連携のもと、その体制整備と周知に努めた。

また、本会役員は「東京都感染症対策連絡協議会」及び「東京都感染症対策連携協議会医療体制協議部会」、並びに「東京都新型インフルエンザ等対策有識者会議」及び同医療・公衆衛生部会に参画し、平時からの連携体制構築の重要性や、薬局が地域における医療アクセスの拠点として機能するための在り方について、意見具申を行った。

前年度に引き続き、感染症発生時における円滑な医療提供体制の構築を目的として、薬局等との「医療措置協定」の締結促進に向けた情報提供を行い、各地区薬剤師会に対し、当該協定の意義や必要性を周知し、締結促進に向けた取り組みを継続して実施した。（令和8年4月1日現在東京都全体で5,821施設が締結）。今後も改正感染症法の趣旨に基づき、薬剤師が感染症対策の一翼を担う体制の構築とその実効性確保に向け、引き続き積極的に取り組んでいく。

1 1. 会員奉仕事業

（1）学術出版物等の斡旋

令和7年度中に約3,090冊、会員価格にして約1,390万円余の書籍の斡旋を行った。主な書籍斡旋は「今日の治療薬 2026」、「保険薬事典プラス 令和8年4月版」、「治療薬マニュアル 2026」、「薬価基準点数早見表 令和8年4月版」などであった。また、各種研修会に出版社に出展を求め、会員の学術出版物入手の便宜を図った。

（2）制度融資の紹介・斡旋

日本薬剤師会が提携する各銀行よりの制度融資「薬局ローン」について、問い合わせに應對し資料を送付するなどの紹介を行った。

（3）がん保険の斡旋

がん保険（アフラック、令和8年3月末日現在の加入31件）の団体契約を継続した。

（4）薬剤師賠償責任保険制度等の周知と新たな加入促進

日本薬剤師会の薬剤師賠償責任保険並びにサイバー保険、アンチ・ドーピング活動保険への

加入について、地区及び職域薬剤師会会長会及び本会ホームページへの掲載により会員に周知を図り加入を推奨した。

（５）薬剤師資格証の取得に関する業務の推進

日薬認証局により薬剤師資格証（以下 HPKI カード）の発行申請がされ、日本薬剤師会と東京都薬剤師会は連携して、発行された HPKI カードを申請者本人に交付する際の一連の業務協力を継続した。

12. その他

（１）日本薬剤師会の諸施策に対する対応及び提言

日本薬剤師会の総会において以下の点について意見具申するとともに、日本薬剤師会が実施する事業に協力した。

- ・医療用医薬品の流通に関する様々な課題・問題点について
- ・高点個別指導の実施について
- ・薬価制度に関する様々な課題・問題点について
- ・薬局製剤について
- ・薬機法改正に向けての共用薬の議論について
- ・感染対策に関する研修プログラムの対応について
- ・「地域医薬品提供体制強化のためのアクションリスト」に向けた関係各所に対する働きかけについて
- ・大学教員薬剤師部会の今後の活動について
- ・20歳未満の者への電子たばこやポケットシーシャ等機器の販売規制について
- ・HPKI カードの普及について
- ・指定濫用防止医薬品の販売について
- ・薬剤師国家試験のあり方について
- ・薬剤師会の組織強化について

（２）日本薬剤師会関東ブロック薬剤師会との連携

関東ブロック（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県の各薬剤師会）の連携を強化するため、以下の関東ブロック会議に出席し日本薬剤師会総会開催にあたり日本薬剤師会の事業について、意見交換を行う等、連携の強化を図った。

第1回：令和7年5月18日（主催：茨城県薬剤師会）

第2回：令和8年2月 1日（主催：千葉県薬剤師会）

（３）東京都病院薬剤師会との連携の更なる強化

本会が事務局を担当した「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（2回開催）」における東京都病院薬剤師会会員 修了者計53名の研修など、相互協力を行った（2-1.（6）「認定実務実習指導薬剤師の養成・更新及び次期改訂内容を踏まえた薬学教育カリキュラムに基づいた実務実習の充実」の項参照）。

また、令和3年度から開始された「薬薬連携推進事業」では、令和3年度から令和6年度事業の結果をふまえ、今年度の事業が展開された。事業の評価・検討を行う「薬薬連携推進関係者連絡会」開催にあたっては、東京都病院薬剤師会から推薦された委員3名が参加し、本会及

び東京都医師会の委員とともに今後の事業展開に向けて意見交換を行った（2-3（4）「地域包括ケアシステムへの参画に向けた在宅医療・介護提供体制の整備」の項を参照）。

なお、令和3年度より、在宅における「がん領域の患者安全管理」を目的とし、東京都がん診療連携協議会研修部会薬剤師小委員会、東京都病院薬剤師会、東京都薬剤師会による3団体合同ワーキンググループに協力している。

また、昨今の医療機関並びに薬局を取り巻く状況は、医療DX、医薬品の需要供給問題、長期収載品選定療養等と慌ただしく変化している。病院薬剤師や薬局薬剤師に関する課題や情報も多様化していることから、東京都病院薬剤師会と双方の情報の共有や事業協力を目的として、令和7年11月28日に東京都病院薬剤師会役員と本会役員による懇談の場を設け意見交換を行った。

（4）東京都学校保健会・東京都学校薬剤師会との連携

学校薬剤師活動に対し情報交換を行い、各種事業に対する相互協力を行った。

（5）東京都並びに関連官公庁への協力と意見具申

東京都保健医療局をはじめ関係官庁に対しては、薬事制度・公費負担医療制度等に関連して連絡を密にし、各種事業に対しては可能な限りの支援・協力を行った。

（6）東京都医師会・東京都歯科医師会との連携

東京都医師会・東京都歯科医師会とは、意見・情報交換を行い、各種事業に対する相互協力を図った。

（7）（公財）日本薬剤師研修センター事業への対応

東京都薬剤師研修協議会として、（公財）日本薬剤師研修センター（以下、研修センター）が開発した薬剤師研修・認定電子システム（PECS）に関する様々な問い合わせに対応し、また、研修センターの研修認定薬剤師制度の変更点等を広く会員に周知するなど、同センターが推進する薬剤師生涯教育事業に協力した。

その他、研修センターの求めに応じ、同センターが主催する「薬剤師生涯学習達成度確認試験」に東京会場の試験監督として役員2名を派遣した。

（8）薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構との連携

薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構（以下、関東地区調整機構）が推進する安定した実務実習受入れ態勢の維持並びに現行の薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた充実した実務実習の実施に向けて、関東地区調整機構が運営する各種事業（認定実務実習指導薬剤師養成事業並びに実務実習施設割振調整事業等）に対する支援・協力を行った（2-1（6）「認定実務実習指導薬剤師の養成・更新及び次期改訂内容を踏まえた薬学教育カリキュラムに基づいた実務実習の充実」の項 及び 2-2（4）「実務実習受入れ態勢の整備と適正な実施」の項を参照）。

（9）都内薬科大学・大学薬学部との連携

薬学教育に関する各種事業に対し意見・情報交換を行った。薬学教育6年制課程における充実した長期実務実習の適切な実施への支援・協力を要請するとともに、本会が開催する講習会等への支援・協力など、相互協力を行った。

また、「地域薬局への薬学生就職対応事業」についても相互協力を行った（12.（13）「地

域薬局への薬学生就職対応事業の実施」の項を参照)。

(10) 各関連団体・友好団体との交流・連携及びその強化

日本薬剤師会をはじめ、東京都医師会、東京都歯科医師会、東京産婦人科医会、東京都看護協会、東京都薬剤師国民健康保険組合、東京医薬品卸業協会、東京医薬品工業協会、東京都医薬品登録販売者協会、東京薬事協会、東京生薬協会等の関連諸団体と連携を保ちながら協調を図った。

また、昭和 52 年に臺北市薬師公會と姉妹会協定を締結し、毎年相互に訪問し、学術交流会等を通じて親善をはかり、薬剤師の技能の理解を深めている。

令和 7 年 11 月は、本会が臺北に赴き、「スイッチ OTC と緊急避妊薬」について学術発表及び意見交換を行った。また現地の台湾衛生福利部中央健康保険庁を視察、台湾における国民皆保険制度、日本における「薬局薬剤師の役割」について、双方から活発な質疑応答を行い、学術交流を図った。

(11) 委員会による都薬会館に関する情報収集

会館は築 50 年を超えており、老朽化対策検討の一環として、会計担当役員は三菱 UFJ 不動産販売及び三井住友信託銀行の不動産部門担当者と、それぞれ短時間の面談を行った。

会館の現状を把握するため、今後調査を実施する場合の進め方や必要資料についてヒアリングを行い、併せて社内保管資料のうち建築当時の図面等の搜索を行った。

(12) 会員サービスに対応した事務局機能の充実と質的向上

【会員向け年会費無料クレジットカードの斡旋】

都薬会員ならば年会費が無料となる VISA ゴールドカードの発行を三井住友カード社と提携し、平成 20 年 11 月から会員に対して斡旋し、令和 8 年 3 月末日現在で 225 名の会員に対して 300 枚が発行されている。

また、日本薬剤師会共済部への加入手続きを含む各種手続きについて事務を代行した。

(令和 8 年度部員 25 名)

(13) 地域薬局への薬学生就職対応事業の実施

令和 7 年度は、帝京大学、昭和医科大学及び昭和薬科大学から学内企業セミナーへの参画要請を受け、3 大学合計 40 名の学生を対象に、東京都薬剤師会として地域薬局の取り組みや、在宅療養の実情、就職先としての魅力について説明を行った。併せて、参加学生から寄せられた多くの質問や相談に対応した。

令和7年度 各賞受賞者（敬称略）

叙 勲

旭日中綬章（春）	山 本 信 夫		
旭日双光章（春）	石 垣 栄 一		
瑞宝双光章（春）	田 中 順 子	山 口 能 子	
瑞宝双光章（秋）	昼 川 美 晴		

厚生労働大臣表彰 〔薬事功労〕	佐 野 峰 夫	廣 瀬 一 成	
--------------------	---------	---------	--

文部科学大臣表彰 〔学校保健功労〕	高 橋 正 也	机 恵 美 子	人 見 一 男
----------------------	---------	---------	---------

東京都知事表彰 〔福祉・医療・衛生功労〕	小 野 稔	塚 原 俊 夫	
-------------------------	-------	---------	--

東京都知事感謝状 〔薬事関係功労〕	犬 伏 洋 夫 野 田 慎 二	加 藤 肇	田 中 智 巳
----------------------	--------------------	-------	---------

東京都知事感謝状 〔薬物乱用防止関係功労〕	大 野 純 男		
--------------------------	---------	--	--

東京都教育委員会表彰 〔健康づくり功労〕	稲 葉 澄 子	岩 下 哲 哉	上 本 靖 子
	菊 池 紀 子	兒 玉 堅 太	齊 藤 あい子
	佐 藤 智 子	佐 藤 博 俊	清 水 美 佳
	少 路 芳 子	杉 戸 大 介	須 崎 信 幸
	谷 川 和 子	富 子 浩 子	中 野 美 樹 子
	根 岸 紀 史	濱 野 明 子	宮 崎 嘉 子
	向 井 喜 久 子	谷 津 祐 子	

日本薬剤師会賞	山 本 信 夫		
---------	---------	--	--

東京都薬剤師会功労賞	礪 部 日 登 美	川 口 宣 男	酒 匂 雅 康
	杉 山 一 延	高 橋 信 之	橘 隆 二
	原 山 眞 理 子	深 澤 了 子	山 口 秀 一
	横 山 裕 生		

令和7年度 物故会員 (敬称略)

令和7年4月1日～令和8年3月31日

中 林 さ ち 子 (港 区) 大 石 博 (大田区)

永 井 宏 (大田区) 清 治 順 一 (杉並区)

八 木 純 (杉並区) 鈴 木 源 司 (豊島区)

光 野 順 一 (北 区) 藤 本 た み 子 (荒川区)

比 留 間 栄 子 (板橋区) 金 井 芳 典 (江戸川区)

堀 美 智 子 (八王子市) 高 瀬 光 子 (武蔵野市)

川 庄 尚 (佐藤製薬) 永 井 恒 司 (直 扱)

森 澤 信 夫 (直 扱)

【令和 7 年度事業報告 資料】

令和8年3月末日現在 地区及び職域薬剤師会別 会員数

(人)

地 区 薬剤師会	現 在 会 員 数			
	A	B	賛助	合 計
千代田区	82	14	0	96
日 本 橋	29	13	0	42
京 橋	47	5	2	54
港 区	118	17	0	135
新 宿 区	146	40	0	186
文 京 区	104	22	0	126
下 谷	41	10	0	51
浅 草	57	17	0	74
墨 田 区	81	21	0	102
江 東 区	119	42	1	162
品 川 区	158	52	1	211
目 黒 区	92	21	1	114
大 田 区	226	86	1	313
世 田 谷	111	32	3	146
玉 川 砧	120	44	1	165
渋谷区	78	18	1	97
中 野 区	109	30	1	140
杉 並 区	171	73	0	244
豊 島 区	108	10	2	120
北 区	118	28	0	146
荒 川 区	70	11	0	81
板 橋 区	198	55	0	253
練 馬 区	198	65	2	265
足 立 区	177	50	0	227
葛 飾 区	153	64	2	219
江戸川区	175	26	0	201

地区薬剤師会	現 在 会 員 数			
	A	B	賛助	合 計
西 多 摩	104	49	0	153
八王子市	152	182	0	334
南 多 摩	124	71	1	196
町 田 市	105	54	0	159
府 中 市	82	1	1	84
調 布 市	80	16	0	96
狛 江 市	25	4	0	29
小金井市	35	8	0	43
国分寺市	36	5	0	41
北 多 摩	147	34	0	181
武蔵野市	65	36	1	102
三 鷹 市	44	9	2	55
西 武	227	71	0	298
中 計	4,312	1,406	23	5,741
職 域 薬剤師会	現 在 会 員 数			
	A	B	賛助	合 計
病 院	0	147	0	147
都立病院 関連施設	0	25	0	25
大正製薬	0	4	0	4
佐藤製薬	0	14	0	14
小 計	0	190	0	190
直 扱	31	547	17	595
合 計	4,343	2,143	40	6,526

令和7年度 地区薬剤師研修会受講者数

行政区	地区薬名	受講者数	
		第1回	第2回
千代田区	千代田区	17	15
中央区	日本橋	11	15
	京橋	19	18
港区	港区	22	17
新宿区	新宿区	29	21
文京区	文京区	38	39
台東区	下谷	22	22
	浅草	27	18
墨田区	墨田区	22	19
江東区	江東区	28	29
品川区	品川区	77	87
目黒区	目黒区	22	26
大田区	大田区	61	59
世田谷区	世田谷	44	47
	玉川砦	44	52
渋谷区	渋谷区	17	19
中野区	中野区	28	35
杉並区	杉並区	69	78

行政区	地区薬名	受講者数	
		第1回	第2回
豊島区	豊島区	53	38
北区	北区	23	17
荒川区	荒川区	25	25
板橋区	板橋区	80	78
練馬区	練馬区	184	122
足立区	足立区	57	50
葛飾区	葛飾区	66	71
江戸川区	江戸川区	63	57
多摩第一	小金井市	9	14
	国分寺市	4	6
	武蔵野市	19	15
	三鷹市	21	10
多摩第二	府中市	25	24
	調布市	23	15
	狛江市	6	9
多摩第三	北多摩	46	45
	西多摩	38	30
多摩第四	八王子市	80	92
	南多摩	34	36
	町田市	22	28
多摩第五	西武	49	55

第1回 第2回

合 計		1,524	1,453
-----	--	-------	-------

令和7年度 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業 地区実施一覧

		Ⅱ-a 27			Ⅱ-a 24			Ⅱ-a 29			Ⅱ-b 30			
		①地域連携研修会			②無菌調剤室設置施設実地研修			③地域包括ケアシステムの構築に向けた多職種連携連絡会			地域包括支援センターと連携した住民向け講習会			
		実施日	場 所	参加人数	実施日	場 所	参加人数	実施日	場 所	参加人数	実施日	場 所	参加人数	
1	千代田区													
2	日本橋										9月20日	中央区役所8階大会議室	110名	
3	京橋	2月28日	銀座プロッサム	10名										
4	港区							2月13日 2月18日	芝地区高齢者相談センター オンライン開催（Zoom）	36名 122名	6月21日 11月20日 11月25日	高輪台区民協働スペース 麻布区民協働スペース 白金いきいきプラザA室	10名 15名 7名	
5	新宿区													
6	文京区	2月28日	文京区医師会館	73名				10月19日 2月28日	文京区立本郷台中学校 文京区医師会館	300名 35名	10月19日	文京区立本郷台中学校	約100名	
7	下谷				12月5日	下谷薬剤師会事務所 Zoom配信	30名	2月6日	台東区役所1001会議室	36名				
8	浅草				12月5日	下谷薬剤師事務局 Zoom配信	33名	2月6日	台東区役所1001会議室	36名				
9	墨田区	11月15日	同愛記念病院 会議室	11名	1月31日	ライフバランス薬局 墨田区薬剤師会事務所	5名	11月29日	賛育会病院事務棟	15名	1月21日	墨田区薬剤師会事務所 Zoom配信	24名	
10	江東区				2月22日	江東区薬剤師会 事務局	6名							
11	品川区	12月15日	品川区薬剤師会	20名	2月7日	品川区薬剤師会	10名				1月24日	杜松ホーム	約200名	
12	目黒区							9月30日	東京共済病院講堂	23名				
13	大田区										3月14日	大田区民ホールアブリコ	200名	
14	世田谷	11月27日	Zoomによるオンライン形式	90名	2月14日	保健医療福祉総合プラザ	10名	2月25日	保健医療福祉総合プラザ	82名				
15	玉川砧	7月23日	Zoomによるオンライン形式	74名	3月8日	ユニスマイル薬局用賀三丁目店	12名	7月10日	玉川区民会館第4・5集会室	49名	3月14日	学校法人成城学園 成城大学	250名	
16	渋谷区				2月5日	文化総合センター大和田 さくらが丘薬局	13名							
17	中野区	11月5日	中野セントラルパークカンファ レンスルーム2A+B、Zoom配信	59名	3月18日	西武アルファ薬局	9名	11月8日	帝京平成大学中野キャンパス	60名	11月9日	帝京平成大学中野キャンパス	80名	
18	杉並区	1月16日	杉並区立産業商工会館	23名	11月24日	医療法人財団荻窪病院 会議室	9名	3月12日	阿佐谷地域区民センター	30名	1月20日	アースサポート高円寺	11名	
19	豊島区	11月18日	大塚製薬株式会社池袋出張所（Zoom）	64名	11月27日	北池薬局	7名	12月1日	豊島区医師会館 4 階講堂+WEB	93名	9月21日 12月7日 2月1日	としまセンタースクエア としま区民センター としまセンタースクエア	37名 35名 63名	
20	北区							12月7日 3月12日	北とびあ13階飛鳥ホール 北とびあ13階飛鳥ホール	45名 56名	9月29日	北とびあ 7 階 第1研修室	49名	
21	荒川区													
22	板橋区	9月26日	お年寄り保健センター会議室及びZoom参加	4名	2月13日	板橋区文化会館 大会議室	8名	8月29日	板橋区文化会館 4 F大会議室	約100名	11月1日	板橋区グリーンホール 2階	300名	
23	練馬区	9月19日	練馬区薬剤師会会館から Web配信	39名	3月7日	練馬区薬剤師会会館 2 F 無菌調製室	13名	10月31日	練馬区立大泉勤労福祉会館	25名	9月25日 10月9日 10月22日 11月11日 11月25日 11月27日	街かどケアカフェさくら 街かどケアカフェかしわ 街かどケアカフェいちょう 街かどケアカフェはるのひ 街かどケアカフェあじさい はつつつセンター開	4名 10名 7名 22名 22名 18名	
24	足立区	3月8日	すこやかプラザあだち 3 階	33名	3月20日	江北セントラル薬局 無菌室	7名	6月27日 7月17日 8月20日 9月26日 10月29日	竹の塚地域学習センター 足立区生涯学習センター 足立区勤労福祉会館 すこやかプラザあだち 梅田地域学習センター	310名	9月17日 10月24日 11月19日 3月18日	梅田学習センター3階 匠本町会館 こども支援センターげんき 梅田学習センター3階	29名 25名 72名 27名	
25	葛飾区	11～3月	薬剤師会館及びZoomミーティン グ、MCSで共有	12名							7月17日 7月18日 7月22日 9月29日 10月8日 10月17日 10月28日 1月27日	葛飾区内の地域包括支援セン ターおよびオレンジカフェ、 子育てひろば等	延べ 120名	
26	江戸川区							2月6日	区内施設	40名				
27	西多摩				3月7日	新町薬局	12名							
28	八王子市							9月18日	八王子市医師会館	83名	11月11日	館ヶ丘団地 商店街前広場	41名	
29	日野市	南 多 摩			1月24日	ノムラ薬局本部会議室 同豊田南店 無菌調剤室	4名				2月4日	地域包括支援センター多摩川苑	約30名	
30	多摩市													
31	稲城市													
32	町田市	1月15日	町田市民ホール 第3会議室	16名	2月12日	町田市民ホール 第5会議室	9名	10月18日	つばさ薬局町田店	7名	11月8日	都営南大谷アパート広場・集会室	62名	
33	府中市	3月3日	府中市民活動センター プラッツ	43名	10月2日	府中西薬局	6名	3月12日	ルミエール府中コンベンションホール	93名	11月8日	中央文化センター ひばりホール	71名	
34	調布市										11月30日 12月5日	調布市立布田小学校 調布市文化会館たづくり	40名 35名	
35	狛江市	2月27日	狛江市薬剤師事務局	56名										
36	小金井市	2月13日	小金井市薬剤師会 Zoom配信	16名				1月28日	小金井市萩野町稲荷神社社務所	12名				
37	国分寺市							2月9日	リオンホール	101名	10月26日	cocobunji WEST 5階	5名	
38	立川市	2月12日	たましんRISURUホール5F	25名	9月13日	北多摩薬剤師会事務局	4名				12月20日	幸町2丁目アパート 自治会集会所	23名	
39	昭島市	10月7日	昭島市市民交流センター	29名	9月20日	北多摩薬剤師会事務局	4名	11月8日	昭島市健康センターあいぼっく	42名	9月27日	昭島市役所 市民ホール	75名	
40	国立市	北 多 摩	9月25日	Web形式	16名	9月13日	北多摩薬剤師会事務局	4名	8月22日	市役所会議室	10月毎週 金曜（計4 日間）	福祉会館等 8 か所	79名	
41	東大和市		9月19日	東大和市中央公民館ホール	21名	12月12日	東大和病院 C3	6名	7月17～18日	東大和市中央公民館ホール	180名	10月23日	東大和市立保健センター	28名
42	武蔵村山市		7月25日	武蔵村山市市民総合センター 3階	24名	10月4日	北多摩薬剤師会事務局	4名	12月12日	さいかち公民館	10名	7月9日	大南地区会館	18名
43	武蔵野市	2月19日	武蔵野市薬剤師会調剤薬局 からWEB配信	76名	12月4日 2月19日	まんまる薬局吉祥寺店 武蔵野市薬剤師会調剤薬局	5名	10月16日	武蔵野市役所西棟 8 階	88名	9月14日	東京都薬用植物園	28名	
44	三鷹市							11月12日	三鷹市教育センター会議室	26名				
45	小平市	武 蔵 野	11月15日 12月17日	オンライン（Zoom） 国立精神神経医療研究センター 病院	26名 46名			7月23日 10月9日 11月14日 1月21日	小平市福祉会館 オンライン開催（Zoom） 小平市福祉会館 オンライン開催（Zoom）	78名 95名 84名 113名	1月17日	小平市福祉会館 第1集会室	41名	
46	東村山市		1月30日	サンパルネ コンベンションホール	25名							9月22日 10月4日	パークアベニュー秋津 恵田ふれあいセンター	16名 30名
47	西東京市		2月18日	グライツィオーゾ	20名				11月28日 1月17日 2月13日	タクトホームこもれび GRAFAREホール ONE FOR ALL西東京 4 F 西東京市役所田無第2庁舎	38名 146名 38名			
48	清瀬市	2月13日	Zoomオンライン	18名							10月7日	清瀬市しあわせ未来センター	19名	
49	東久留米市													

令和7年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修《研修会A》地区開催一覧

【旧プログラム】

	共催薬剤師会名	開催日	時間帯	場所	受講数	受講証明書 発行者	募集数	一般 受講料	会員 受講料	1-1 DVD	1-2	1-3	2-1	2-2①	2-2②	2-3	演習	まとめ	開催 時間 計	研修会番号
1	一般社団法人 文京区薬剤師会	9月28日	12：00～16：30	読売理工医療福祉専門学校	20	都薬	20	6,000	3,000	25	20	20	30	30	20	10	70	30	270	2025-13-038
2	一般社団法人 玉川砦薬剤師会	9月27日	16：00～20：30	世田谷区立保健医療福祉総合プラザ（うめとびあ） 研修室	22	都薬	50	9,000	3,000	25	20	20	30	20	20	10	70	35	270	2025-13-037
	一般社団法人 世田谷薬剤師会																			
3	一般社団法人 練馬区薬剤師会	2月14日	16：00～20：30	練馬区薬剤師会館 会議室	12	都薬 練馬区薬	24	5,000	0	25	20	20	30	20	20	10	70	30	270	2025-13-072
4	一般社団法人 八王子薬剤師会	9月23日	12：50～17：20	八王子薬剤師会研修センター	25	都薬 八王子薬	40	6,000	3,000	25	20	20	30	20	20	10	70	30	265	2025-13-034
5	一般社団法人 北多摩薬剤師会	8月30日	15：00～19：30	立川ホール	24	都薬 北多摩薬	50	9,000	3,000	25	20	20	30	20	20	10	70	30	270	2025-13-026
6	一般社団法人 小金井市薬剤師会	7月6日	12：00～16：30	小金井市薬剤師会館	15	都薬 小金井市薬	15	9000※	3,000	25	20	20	30	25	20	10	70	30	270	2025-13-013
	一般社団法人 武蔵野市薬剤師会																			
	一般社団法人 三鷹市薬剤師会																			
	一般社団法人 国分寺市薬剤師会																			

※ 4 市以外の所属会員 6,000円

【新プログラム】

	共催薬剤師会名	開催日	時間帯	場所	受講数	受講証明書 発行者	募集数	一般 受講料	会員 受講料	1-1 DVD	1-2	1-3	2-1	2-2	演習	まとめ	開催 時間 計	研修会番号
1	公益社団法人 東京都薬剤師会	12月14日	10：00～14：30	帝京平成大学 中野キャンパス	98	都薬	128	9,000	3,000	25	20	20	30	30	90	30	270	2025-13-057

令和7年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修《研修会B》地区開催一覧

	共催薬剤師会名	開催日	時間帯	場所	受講数	受講証明書 発行者	募集数	一般 受講料	会員 受講料	講義 DVD	演習	まとめ	レポート 作成	開催 時間 計	研修会番号	
1	公益社団法人 東京都薬剤師会	12月14日	15：00～19：40	帝京平成大学 中野キャンパス	75	都薬	112	9,000	3,000	10	21	229	5	15	270	2025-13-045

令和7年度 処方箋統計
— 社保＋国保（東京都） —

年 月	請求件数		処方箋枚数		調剤報酬点数		請求薬局数	
	件 数	対前年同月比(%)	枚 数	対前年同月比(%)	点 数(千点)	対前年同月比(%)	薬局数	対前年同月比(%)
令和7年4月	7,263,950	101.0	8,555,486	100.2	7,639,330	103.3	7,023	101.7
5月	7,115,375	99.7	8,338,699	99.1	7,287,939	102.8	7,031	101.5
6月	7,139,708	100.4	8,380,357	100.2	7,369,358	103.8	7,022	101.6
7月	7,286,110	97.8	8,642,027	97.1	7,813,389	100.8	7,016	101.5
8月	6,758,281	99.9	7,850,362	98.8	7,297,512	101.6	7,057	101.6
9月	7,002,884	101.4	8,215,476	101.5	7,578,966	106.4	7,020	100.9
10月	7,402,911	98.9	8,788,543	97.9	7,959,971	104.1	7,042	100.9
11月	7,510,793	101.0	8,733,323	98.9	7,639,411	103.4	7,045	101.1
12月	7,982,056	96.9	10,923,012	111.9	10,499,705	124.7	7,060	101.6
8年1月	7,257,248	100.0	8,352,242	99.6	7,790,505	104.4	7,075	101.5
2月								
3月								

基金統計月報（社会保険診療報酬支払基金）・診療報酬審査支払業務関係資料（東京都国民健康保険団体連合会）をもとに東京都薬剤師会作成。

【資料6】

処方箋受取率(%) (令和4年10月～令和7年10月調剤分)

—東京都国民健康保険月例報告—公営国保分—

東京都薬剤師会調べ

	R4年10月	R5年10月	R6年10月	R7年10月
都 合 計	77.9	80.9	81.1	81.1
2 3 区 計	76.7	80.7	80.3	80.3
千代田区	73.8	77.6	78.3	76.4
中 央 区	76.9	80.4	79.9	81.1
港 区	67.0	71.8	72.5	72.6
新 宿 区	73.7	78.3	78.3	78.4
文 京 区	76.2	82.4	81.9	80.6
台 東 区	83.5	87.0	87.9	86.1
墨 田 区	71.8	76.5	77.5	77.1
江 東 区	77.7	82.2	81.2	82.7
品 川 区	80.0	81.9	82.5	83.0
目 黒 区	74.8	77.4	77.5	77.9
大 田 区	77.8	82.2	83.9	82.6
世田谷区	74.8	77.6	77.3	77.0
渋谷区	71.4	73.2	72.5	73.2
中 野 区	79.1	83.7	83.4	83.4
杉 並 区	75.8	78.5	79.4	79.2
豊 島 区	74.9	77.9	77.1	79.1
北 区	76.6	79.6	79.3	79.2
荒 川 区	73.2	76.8	76.6	76.8
板 橋 区	79.6	82.5	81.7	82.1
練 馬 区	79.5	82.8	83.3	83.0
足 立 区	79.7	81.6	83.1	83.6
葛 飾 区	78.4	80.7	82.2	82.0
江戸川区	75.2	78.5	78.7	78.8

	R4年10月	R5年10月	R6年10月	R7年10月
多摩地区計	80.5	83.1	83.0	82.7
八王子市	82.9	84.8	84.7	83.7
立 川 市	80.0	82.1	82.2	82.7
武蔵野市	76.0	80.1	80.3	78.5
三 鷹 市	81.3	84.1	84.8	83.3
青 梅 市	77.7	81.6	80.9	79.5
府 中 市	81.7	86.1	85.0	83.5
昭 島 市	80.3	81.7	81.1	81.4
調 布 市	79.1	82.5	82.4	83.0
町 田 市	76.3	79.9	80.7	80.5
福 生 市	84.0	87.2	83.9	85.7
羽 村 市	81.2	80.2	81.9	81.4
西多摩郡	80.6	79.3	80.2	81.6
あきる野市	84.9	86.9	85.2	82.5
日 野 市	81.6	83.2	82.5	80.7
多 摩 市	79.5	82.6	83.3	83.9
稲 城 市	79.6	81.8	83.0	81.5
国 立 市	78.2	79.3	80.9	79.4
狛 江 市	78.4	80.6	81.3	81.0
小金井市	74.8	77.5	77.1	77.1
国分寺市	77.9	81.4	81.1	81.4
武蔵村山市	82.6	84.8	84.3	85.2
東大和市	84.5	84.6	84.1	83.8
東村山市	84.4	86.9	86.6	88.1
清 瀬 市	81.2	84.7	83.2	84.6
東久留米市	88.2	88.9	88.6	89.0
西東京市	80.5	84.3	83.9	85.1
小 平 市	80.1	83.1	82.9	84.4
島 し よ	78.1	80.5	78.5	81.1

受取率： 東京都薬剤師会＝処方箋枚数÷（医科外来診療実日数×0.68＋歯科診療実日数×0.11）×100

（注）東京都薬剤師会は投薬率（上記0.68又は0.11）を固定しているのに対し、日本薬剤師会は直近4年間の
 平均値（23年度は医科を0.67、歯科を0.105）を採用（日薬方式は受取率は若干高くなる）。